中津市文化財調査報告　第87集

中津城下町遺跡
29・31次調査

病院施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2018
中津市教育委員会

序

私たちのまち、中津市は長い歴史を持っています。市内には往時を偲ばせる遺跡が数多く残っており、今回調査報告書を刊行いたします中津城下町遺跡もこうした遺跡の一つです。中津城跡の周りに広がる中津城下町の整備は、中津に入部した黒田官兵衛孝高によって先鞭が付けられました。それから約260年間、細川氏、小笠原氏、奥平氏によって整備拡張が行われ、その後の中津市の発展につながっています。

中津市教育委員会では市街地の発展に伴って、開発行為の際は文化財保護のための発掘調査を行い、市民の皆さまに文化財の価値を伝えるため、遺跡の保存・整備についても力を入れております。

最後になりましたが、今回の調査の際は、近隣にお住いの方々に大変ご迷惑をおかけしました。また、調査にあたっては、多数の方々にご指導を頂きました。重ねて御礼申し上げますとともに、これからも中津市の埋蔵文化財行政にご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成30年3月31日

中津市教育委員会
教育長　廣畑　　功

例　言

一、本書は大分県中津市教育委員会が平成27年度に実施した中津城下町遺跡29・31次調査の発掘調査報告書である。
一、発掘調査は花崎、丸山、衞藤、村上が行った。
一、現場作業は下記の皆さんの協力による。
上田和幸、太田博泰、小川禮子、奥田誠、加来晴美、金崎ミチ子、辛島香代子、川口政代、久原彩、塩谷絹子、末廣洋子、角美枝子、立澤彩、田中政恵、田中政弘、中上好孝、法輪敬道、樋口愛子、福成誠一、松本和彦、宮津しのぶ、山中聖子、山本高亮、若木和美
一、整理作業、図面浄書は下記の皆さんの協力による。
粟田真弥、岩崎弘子、奥塚恭子、吉上かおり、高榎裕美、土橋厚子
一、整理作業、図面トレースは下記の皆さんの協力による。
安倍方恵、粟田真弥、岩崎弘子、岩男純子、衞藤京子、奥塚恭子、吉上かおり、久原彩、高榎裕美、土橋厚子、長倉朱見
一、遺構図のデジタルトレースはおもに衞藤が担当した。出土遺物の実測は末永が担当した。
一、デジタルトレース、写真はめ込み業務は㈱埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
一、本書の執筆は第１章、第２章、第３章１を丸山が、第３章２を花崎と浦井が、第３章３を花崎が、第４章を花崎・浦井・丸山が行った。
一、一部の出土遺物について大分県立埋蔵文化財センター吉田寛氏にご教示頂いた。

本　文　目　次

第１章　はじめに …… 1
　1　調査の経過 …… 1
　（1）29次調査 …… 1
　（2）31次調査 …… 1
　2　調査体制 …… 2
　3　過去の調査歴 …… 3

第２章　これまでの発掘調査 …… 4
　1　既往の周辺調査 …… 4
　2　町割の時期と背割下水 …… 5

第３章　調査成果 …… 9
　1　29次調査 …… 9
　2　31次調査１区 …… 23
　3　31次調査２区 …… 45

第４章　まとめ …… 51

挿　図　目　次

第１図　調査区位置図（1:2500）…… 1
第２図　周辺の調査歴 …… 4
第３図　中津城下町の背割下水 …… 5
第４図　29・31次調査区合成図（1:250） …… 7
第５図　29次北側調査区（1:80） …… 13
第６図　29次南側調査区上層（左）・下層（右）（1:80） …… 14
第７図　29次調査区個別遺構図（S-71、73、石積1、2、3　1:50） …… 15
第８図　29次調査区出土遺物１（1:3） …… 18
第９図　29次調査区出土遺物２（1:3、10は1:2） …… 19
第10図　29次調査区出土遺物３（1:3） …… 20
第11図　29次調査区出土遺物４（1:3、48は1:2） …… 21
第12図　29次調査区出土遺物５（1:3） …… 22
第13図　31次１区調査区（1:100） …… 27
第14図　31次調査１区個別遺構図１（S-3･5･6･8･北壁土層　1:40） …… 29
第15図　31次調査１区個別遺構図２（S-9･10･12･14･16　1:40） …… 30
第16図　31次調査１区個別遺構図３（S-18･19･2号敷石遺構　1:40） …… 31
第17図　31次調査１区個別遺構図４（S-24　1:20、SE-1･4　1:40） …… 32
第18図　31次調査１区出土遺物１（1:3、14は1:2） …… 37
第19図　31次調査１区出土遺物２（1:3、18は1:2） …… 38
第20図　31次調査１区出土遺物３（1:3、38は1:2） …… 39
第21図　31次調査１区出土遺物４（1:3、54は1:2） …… 40
第22図　31次調査１区出土遺物５（1:3） …… 41
第23図　31次調査１区出土遺物６（1:3、100は1:2） …… 42
第24図　31次調査１区出土遺物７（1:3、133は1:2） …… 43
第25図　31次調査１区出土遺物８（1:3、138は1:4、139は1:5） …… 44
第26図　31次調査２区個別遺構図（1:80柱穴列、1:50） …… 48
第27図　31次調査２区出土遺物（1:3、14は1:2） …… 50

表　目　次

表１　過去の中津城下町遺跡発掘調査一覧 …… 3
表２　29次調査遺構観察表１ …… 10
表３　29次調査遺構観察表２ …… 11
表４　29次調査遺構観察表３ …… 12
表５　29次調査図化遺物観察表１ …… 16
表６　29次調査図化遺物観察表２ …… 17
表７　31次1区調査遺構観察表１ …… 24
表８　31次1区調査遺構観察表２ …… 25
表９　31次1区調査図化遺物観察表１ …… 33
表10　31次1区調査図化遺物観察表２ …… 34
表11　31次1区調査図化遺物観察表３ …… 35
表12　31次1区調査図化遺物観察表４ …… 36
表13　31次2区調査遺構観察表１ …… 46
表14　31次2区調査遺構観察表２ …… 47
表15　31次2区調査図化遺物観察表１ …… 49

写 真 図 版 目 次

写真１　29次北側調査区全景（北から）…… 55
写真２　29次南側調査区全景（東から）…… 55
写真３　石積１（北東から）…… 56
写真４　Ｓ-３（南東から）…… 56
写真５　Ｓ-43（北東から）…… 56
写真６　石積２（南から）…… 56
写真７　石積３（北東から）…… 56
写真８　Ｓ-76（東から）…… 56
写真９　Ｓ-73（東から）…… 57
写真10　Ｓ-72（南から）…… 57
写真11　Ｓ-73陶器出土状況…… 57
写真12　Ｓ-71（北から）…… 57
写真13　31次１区遺構検出状況（北から）…… 58
写真14　31次１区調査区全景（西から）…… 58
写真15　Ｓ-14（西から）…… 59
写真16　ＳＥ-４（東から）…… 59
写真17　２号埋甕検出状況…… 59
写真18　２号埋甕出土状況…… 59
写真19　埋甕埋土除去後…… 59
写真20　31次１区西側全景（西から）…… 60
写真21　Ｓ-24出土状況（南から）…… 60
写真22　31次２区調査区全景（北から）…… 61
写真23　31次２区調査区全景（南から）…… 61
写真24　Ｓ-21石列（北から）…… 61
写真25　Ｓ-37陶器出土状況（東から）…… 61
写真26　Ｓ-29・33・35・36（東から）…… 61
写真27　作業風景…… 61

第１章　はじめに

１　調査の経過

中津市では、年間約200件の文化財保護法第93条第１項の届出があり、このうち５％の割合で本発掘調査を行っている。今回の発掘調査もこうした緊急発掘調査の一つである。

（１）29次調査

平成27年２月27日、中津市1427-4、1799-2の一部で病院施設建設についての「埋蔵文化財発掘の届出」が医療法人杏林会理事長 菊池仁志氏より提出された。これを受けて大分県教育委員会教育長から平成27年３月９日付けで「発掘調査」で埋蔵文化財の発掘についての通知が出された。その後中津市教育委員会が確認調査を行い、本発掘調査の必要性を認めた。本発掘調査は中津市教育委員会文化財課が、平成27年４月８日～７月11日の期間行った。

（２）31次調査

平成27年３月19日、中津市1427-2外７筆で病院施設建設についての「埋蔵文化財発掘の届出」が医療法人杏林会理事長 菊池仁志氏より提出された。これを受けて大分県教育委員会教育長から平成27年３月27日に「発掘調査」で埋蔵文化財の発掘についての通知が出された。その後中津市教育委員会が確認調査を行い、本発掘調査の必要性を認めた。本発掘調査は中津市教育委員会文化財課が、平成27年７月８日～８月31日と平成27年11月10日～12月９日の期間行った。

第１図　調査区位置図（1:2500）

2　調査体制

調査体制は以下のとおりである。

平成27年度（本発掘調査）

調査主体	中津市教育委員会	
調査責任者	廣畑　　功	（中津市教育委員会　教育長）
調査事務	平原　　潤	（中津市教育委員会文化財課　課長）
	高崎　章子	（　同　文化財係　係長）
	大森　　建	（　同　管理係　係長）
	吉川　奈央	（　同　管理係）
	長尾　淳平	（　同　管理係）
担　当	花崎　　徹	（　同　文化財係）
	丸山　利枝	（　同　文化財係）
	衞藤　美紀	（　同　文化財係）
	村上　久和	（　同　文化財係　嘱託）

平成28・29年度（整理作業、報告書編集）

調査主体	中津市教育委員会	
調査責任者	廣畑　　功	（中津市教育委員会　教育長）
調査事務	高尾　良香	（中津市教育委員会社会教育課　課長）
	高崎　章子	（　同　文化財室　室長）
	大森　　建	（　同　管理・文化振興係　主幹）
	湊　　恵	（　同　管理・文化振興係　29年度）
	長尾　淳平	（　同　管理・文化振興係　28年度）
担　当	花崎　　徹	（　同　文化財室　主幹）
	浦井　直幸	（　同　文化財室）
	丸山　利枝	（　同　文化財室）
	衞藤　美紀	（　同　文化財室）
	土谷　崇夫	（　同　文化財室　嘱託　28年度）
	末永　弥義	（　同　文化財室　嘱託　29年度～）

3　過去の調査歴

表１　過去の中津城下町遺跡発掘調査一覧

番号	所在地	調査面積（㎡）	調査期間	調査内容		深さcm（遺構面まで）	調査原因	報告書
				遺構・遺物	時代			
1	中津市1366-1	1,700	1991/12/15～1992/2/20	溝・土坑、近世陶磁器・瓦	近世	70～80?	図書館建設	1992「藩校進脩館跡」中津市教委第11集
2	中津市1468	1,571	1993/2/1～3/31、1994/7/14～1995/3/31	石垣・石列・土坑、土師器・陶磁器・木製品・瓦	17世紀・18世紀	70～80?	公民館建設	1998「御用屋敷遺跡」中津市教委第21集
3	中津市1385他	800	1997/8/20～1998/3/20	柱穴・溝・井戸・土壙	17～19世紀	80	県道改良	2004「中津城下町遺跡殿町地区」中津市教委第32集
4	中津市1393他	4,080	1998/6/1～1999/3/19	柱穴・溝・井戸・土坑	近世陶磁器・土師器・瓦	80	県道拡幅	2004「中津城下町遺跡殿町地区」中津市教委第32集
5	中津市1405他	2,080	1999/8/1～12/22	土坑・柱穴・石列・溝	近世陶磁器・土器・瓦・銅製品	100～150	県道拡幅	2004「中津城下町遺跡殿町地区」中津市教委第32集
6	中津市1424	810	2002/9/4～9/11	土坑群・井戸	近世	100?	病院建設	2004「中津城下町遺跡殿町奥平孫次郎屋敷跡」中津市教委第33集 2003「中津城本丸南西石垣(Ⅱ)他」中津市教委第30集
7	中津市1433-1他	1,140	2003/10/1～2004/2/18	廃棄土坑・御水道	近世	100?	市道拡幅	
8	中津市1843他	360	2004/6/1～10/15	土坑・石列・井戸	近世	100?	道路拡幅	
9	中津市828-2他	5	2007/1/11	外掘?	不明	200	集合住宅建設	2007「中津城下町遺跡豊後町地区・殿町地区・中津城(Ⅵ)他」中津市教委第42集
10	中津市1431-1	8	2007/1/18	城下町	江戸	80?	医療施設建設	2007「中津城下町遺跡豊後町地区・殿町地区・中津城(Ⅵ)他」中津市教委第42集
11	中津市2196-2他	160	2008/5/1～5/21	土坑・石列	近世	50～70	市道新設	2014「中津城下町遺跡11次調査区」中津市教委第68集本報告
12	中津市1441-2	130	2009/10/20～11/2	土坑・井戸	近世	100?	市営住宅建設	
13	中津市904-3他	70	2009/8/31～9/10	土坑・井戸	近世	100	市道拡幅	
14	中津市575	1,260	2009/9/9～2010/3/31	井戸・溝状遺構	近世	25	確認調査	2010「中津城下町遺跡竹下義兵衛屋敷」中津市教委第51集
15	中津市1888番地5	75	2010/10/6～11/4	土坑・井戸・溝	陶磁器	120	リハビリ施設建設	2012「中津城下町遺跡新魚町地区」中津市教委第55集
16	中津市1437-2他	5	2010/12/8	土坑	時期不明	100	倉庫建設	
17	中津市1005番地	40	2012/8/6～8/17	土坑	陶磁器(18～19C)	50?	個人住宅建設	
18	中津市1436番地	163	2012/8/16～11/30	土坑・井戸・溝	陶磁器(17C～)	100?	保育園建て替え	2014「中津城下町遺跡第18次調査」中津市教委第69集
19	中津市987番地	130	2012/11/12～12/25	土坑・溝	陶磁器(17～19C)	70～80?	福祉施設建設	2013「中津城下町遺跡寺町地区」中津市教委第65集
20	中津市801	20	2012/12/19	溝状遺構・土坑	近世	200?	戸建賃貸住宅建設	
21	中津市1828	5	2013/3/11～現在	石敷・礎石	陶磁器(18C以降)	10	公共建物	未報告
22	中津市1178番地	29	2013/4/23～4/25	土坑	陶磁器(18C後半～19C)	100?	個人住宅建設	未報告
23	中津市1094番地	40	2013/4/30～5/2	土坑	陶磁器(18C以降)	140	個人住宅建設	未報告
24	中津市1720番1他	80	2014/2/24～3/14	土坑・溝	陶磁器(18C以降)	120	集合住宅建設	未報告
25	中津市1930番他	40	2014/2/14(試掘)	土坑	陶磁器(18C以降)	50～100	市道建設	2018『中津城下町遺跡25・26次調査』中津市教委第77集
26							市道建設	
27	中津市1516番1	32	2014/7/11	土坑	陶磁器(18C以降)	120～130	集合住宅建設	
28	中津市2017-2他		2014/3/末	土坑・溝	陶磁器(18C以降)		道路新設・拡幅	
29	中津市1799-2他	159	2015/4/9～7/11	土坑・背割水路・石積	陶磁器(17C前半～18C後半)	120～130	病院施設建設	2018『中津城下町遺跡29・31次調査』中津市教委第87集
30	中津市蛭子町3丁目34外2筆	15	2015/4/9	堀上層埋土	陶磁器(幕末～近代)	170	店舗建設	2016『市内遺跡試掘確認調査他』中津市教委第75集
31	中津市1427-2他	447	2015/5/28	土坑・陶磁器		70	病院施設建設	2018『中津城下町遺跡29・31次調査』中津市教委第87集
32	中津市2273-2外	31	2015/9/4	土坑・溝	弥生・古墳・近世	40～100	市道建設	未報告
33	中津市2502他	10	2015/11/12	溝・土坑	近世末	50	市道建設	
34	中津市1369番地他	50	2015/10/26、2015/12/22	土坑?	近世?	90	図書館駐車場	2016「市内遺跡」概報
35	蛭子町3丁目30,31,32	24	2016/3/9	溝(外堀)	近世	140～	集合住宅建設	
36	中津市563-1番地付近から517-6番地付近	17	2017/5/10	土坑	近世?	60	道路拡幅	
			2017/9/11～					
37	中津市1380-1	57	2017/11/13・28	土坑・溝状遺構	近世	120	児童館建設	
38	中津市1592-1外	14	2018/2/1	土坑・柱穴	近世	80	店舗建設	

第２章　これまでの発掘調査

１　既往の周辺調査

６次調査（参考文献①）

病院施設新設に伴い調査された。調査面積は810㎡である。土坑、井戸、埋甕を確認している。「中津城下絵図」では殿町の奥平孫兵衛の屋敷地にあたる。

７・８次調査

市道拡幅に伴い調査された。調査面積は1,500㎡である。御水道跡、土坑、井戸跡、石列を確認している。菅沼三郎右ェ門、守谷岡右ェ門、山崎伊兵衛屋敷地、諸町町屋にあたる。

15次調査（参考文献②）

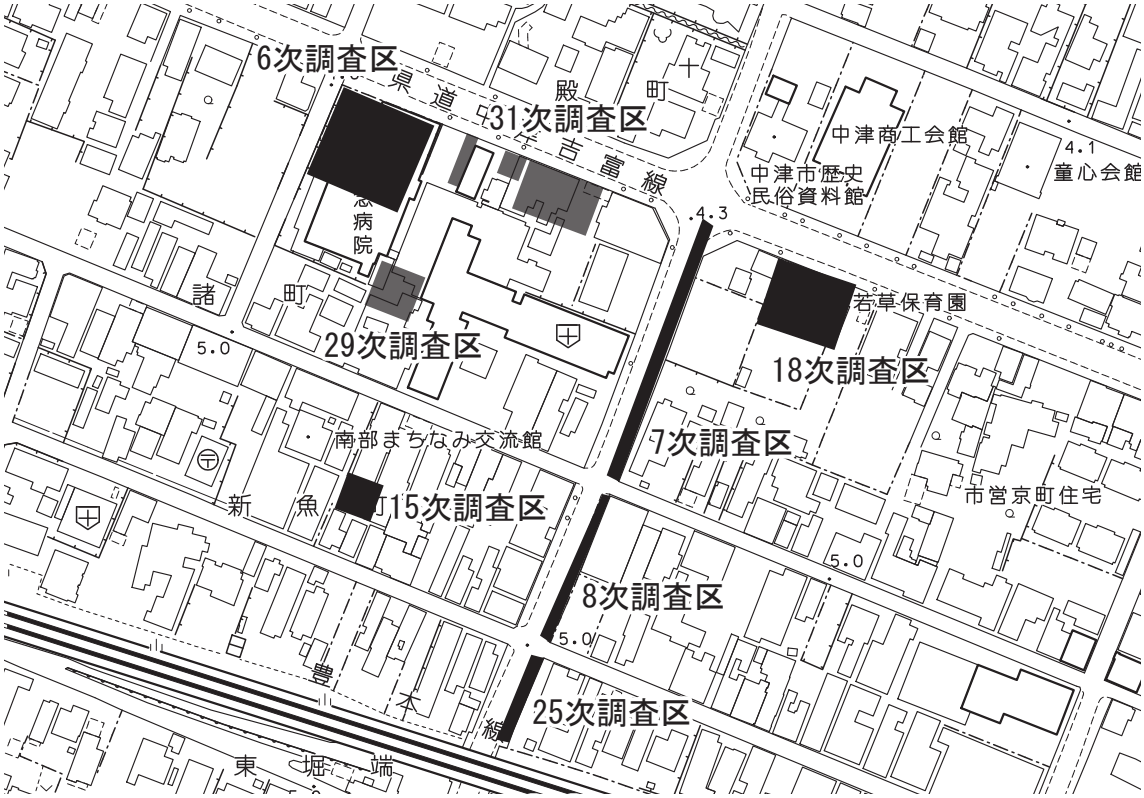
リハビリ施設建設に伴い調査された。調査面積は75㎡である。土坑を確認している。新魚町の町屋跡である。報告書では、旧城下町の背割下水を網羅的に調査している。

18次調査（参考文献③）

保育園改築に伴い調査された。調査面積は156㎡である。土坑、溝跡、井戸跡、石列を確認している。菅沼三郎右ェ門、奥平市郎兵衛の屋敷地にあたり屋敷境の石列・溝を検出した。

25次調査（参考文献④）

市道拡幅に伴い調査された。調査面積は85㎡である。検出遺構は、土坑、井戸跡、石列である。調査区は新魚町の町屋にあたる。

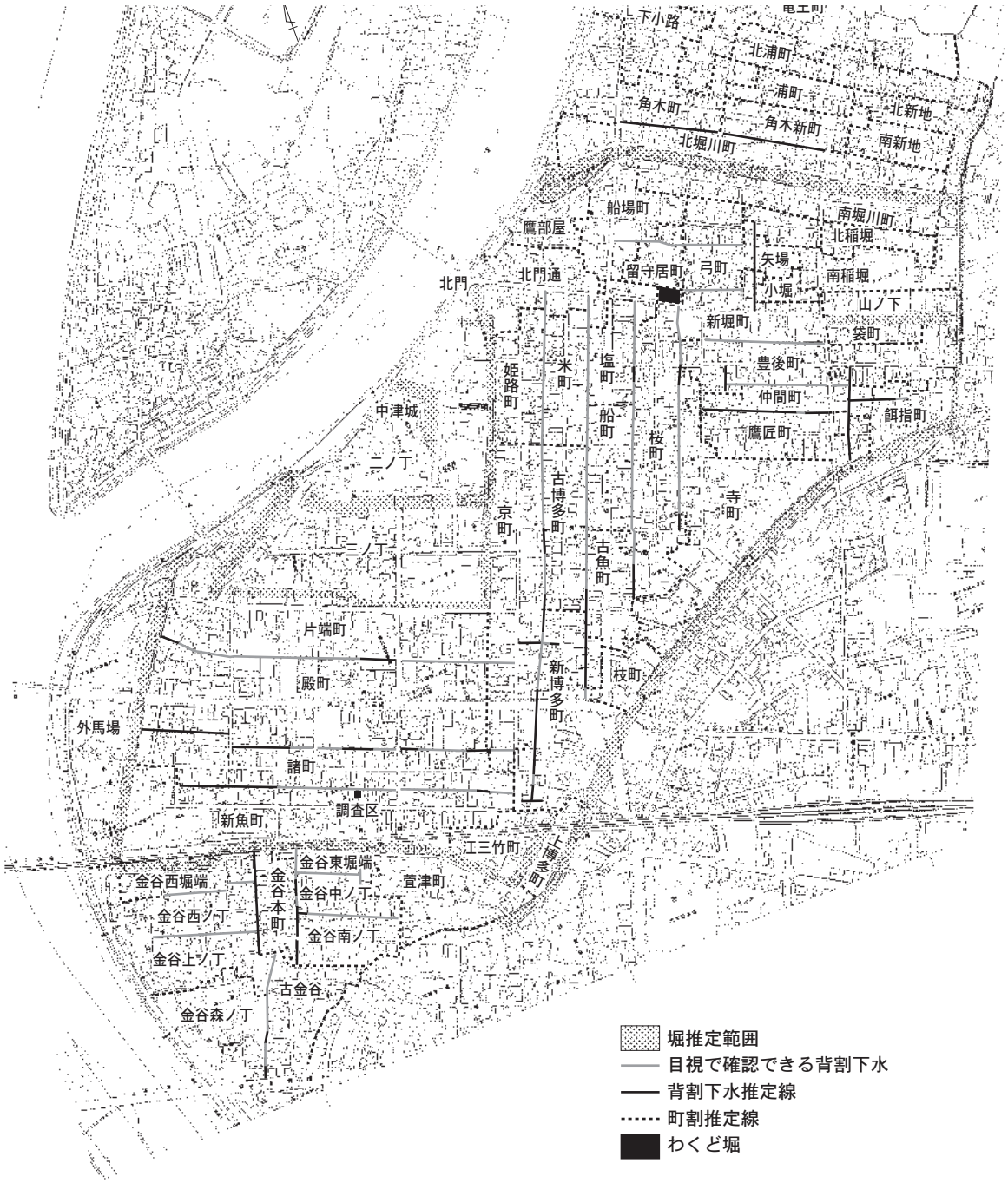


第２図　周辺の調査歴

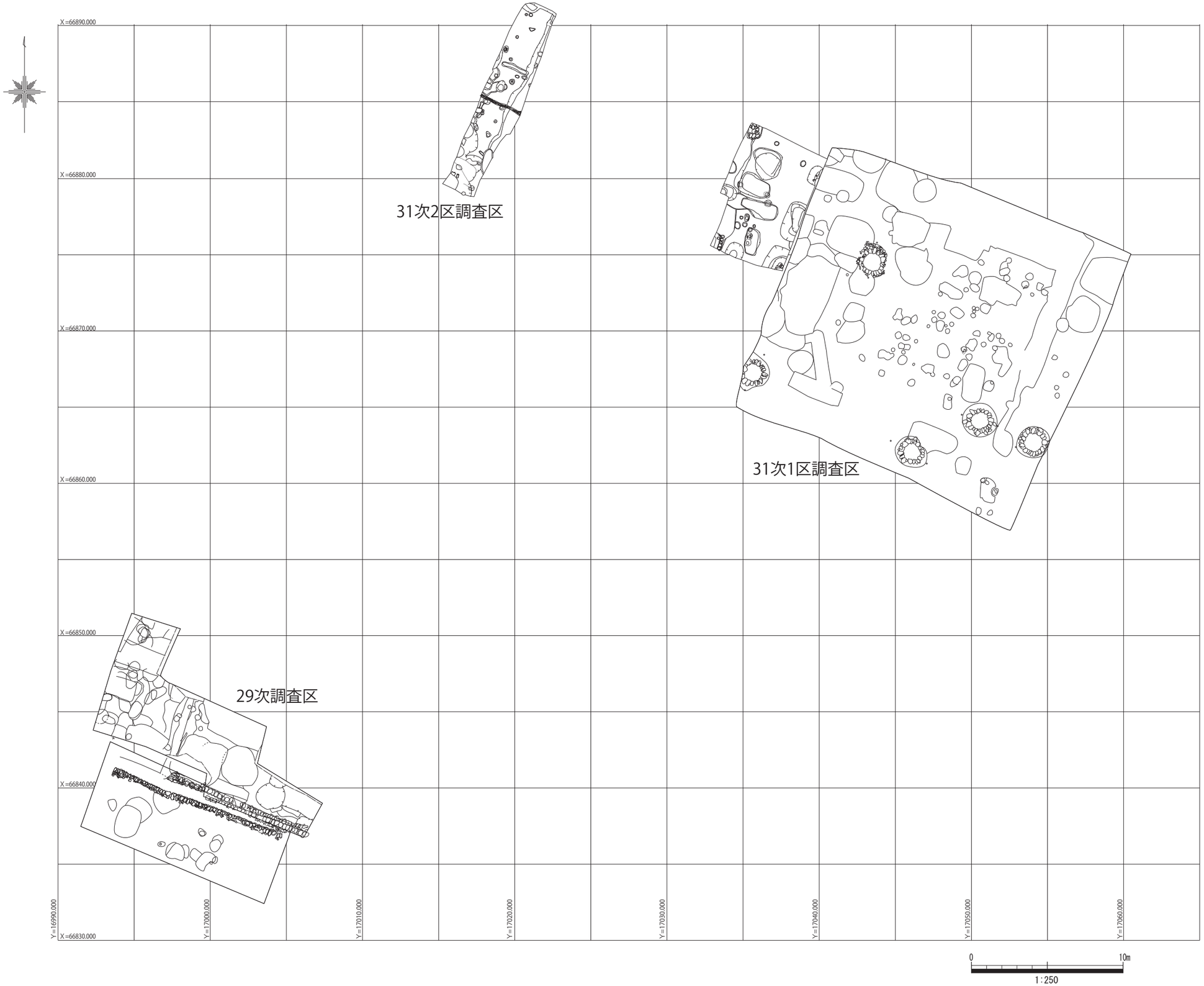
2　町割の時期と背割下水

旧中津城下町では、生活排水を流す排水口として今でも背割下水が利用されている場所がある。現在使用されている背割下水は、江戸時代のものとほぼ重複してつくられていることが発掘調査で確認されている。背割下水の水路網は、城下町の町割の線と一致することから、城下町整備の際に町を区画する機能もあったと考えられている。（第３図）

一方、背割下水に先行する時期の溝が３、４、５、19、29次調査で発見されている。（文献⑤、⑥、本報告）これらの溝は、調査区の最下層で検出された東西、南北方向の直線的な溝で、16世紀末～17世紀初頭の遺物を含むことから、近世初頭の屋敷区画溝である可能性がある。29次調査では、背割下水のほぼ真下で検出している。中津城下町の形成過程を論じるうえで重要な意味を持つ遺構である。



第３図　中津城下町の背割下水（文献②から転載）



第４図　29・31次調査区合成図（1:250）

第３章　調査成果

１　29次調査（第５・６図、表２～４）

（１）調査の概要

建築物範囲について発掘調査対象とした。既存建物の解体工事の都合で南北の２区に分けて調査した。面積は159㎡で、検出面とした面の標高は北側調査区で3.9ｍ、南側調査区で3.7ｍである。南側調査区は表土が厚く、その分削平を深く受けていると考えられる。北側と南側調査区では遺構の密度に大きな差がある。北側調査区は殿町、南側調査区は諸町に位置する。住民の所属階級の違いが土地利用の違いとして現れているのかもしれない。

（２）おもな遺構

Ｓ-71（図６・７、写真12）

南北調査区で確認した南北方向の溝である。北側調査区でＳ-54と重複し、Ｓ-71が古い。南側調査区ではＳ-73と直行し、Ｓ-73より10～20㎝深いが新旧関係は不明である。断面形は逆台形をなし、底面の東壁際には人頭大の扁平な川原石を一段並べていた。溝の方向、平面・断面の形状から区画溝である可能性が高い。出土遺物は図化した58～60の他、15世紀後半から17世紀初頭の所産である。

Ｓ-73（図６・７、写真９）

南側調査区で確認した東西方向の溝で、Ｓ-71と直行する。Ｓ-76と石列２、Ｓ-60～70を検出した整地層を掘り下げて検出した。断面形は逆台形をなす。溝の方向、平面・断面形が、江戸時代中期～後期の背割水路（Ｓ-76と石列２）とほぼ同じ位置で重複することから背割以前の区画溝であると考えている。出土遺物は図化した61～65の他に瀬戸美濃、初期伊万里など17世紀初頭に位置づけられる。

石積１（図５・７、写真３）

北側調査区で確認した東西方向２列の石列で、一部２段目が残り長さ20㎝ほどの川原石を小口積する。１段目の接地面の標高は西から東へ4.2～４ｍである。7.5ｍ分を確認している。南側調査区では延長を確認していない。調査区外に現存する背割水路の延長線上にあることから前段階の背割水路であると考えられる。しかし２列は面を突合せた状態であり、水路を北側の石列で埋めた状況であると考えられる。南側の列は一部三和土で練積みした状況や裏込めが確認できたことから、原位置を留めていると考えられる。江戸時代末から近代の背割水路と考えている。

石積２（図６・７、写真６）

南側調査区で確認した東西方向の石積で、３段の石積である。2.6ｍを確認した。１段目の接地面の標高が3.9ｍで位置関係から石積１の延長（北側の原位置）である可能性があるが、復元した場合水路幅が狭くなるため時期差を考えたい。

石積３（図６・７、写真７・８）

南側調査区で確認した東西方向の石積で、１段目に幅30～40㎝の川原石を用い２段目からは長さ20～30㎝、幅10㎝ほどの川原石を小口積する。11.5ｍを確認した。１段目の標高は3.7ｍである。西から３分の１は方向に僅かなズレがあり使用する石の大きさも違っている。また対面に石積はなく、Ｓ-76と一体で区画溝として機能していたと考えられ、背割水路の古い段階のものと考えられる。出土遺物は、裏込めから67が出土している。Ｓ-76からは京焼風碗やくらわんか碗が出土しており、18世紀中頃の年代が与えられる。

表２　29次調査遺構観察表１

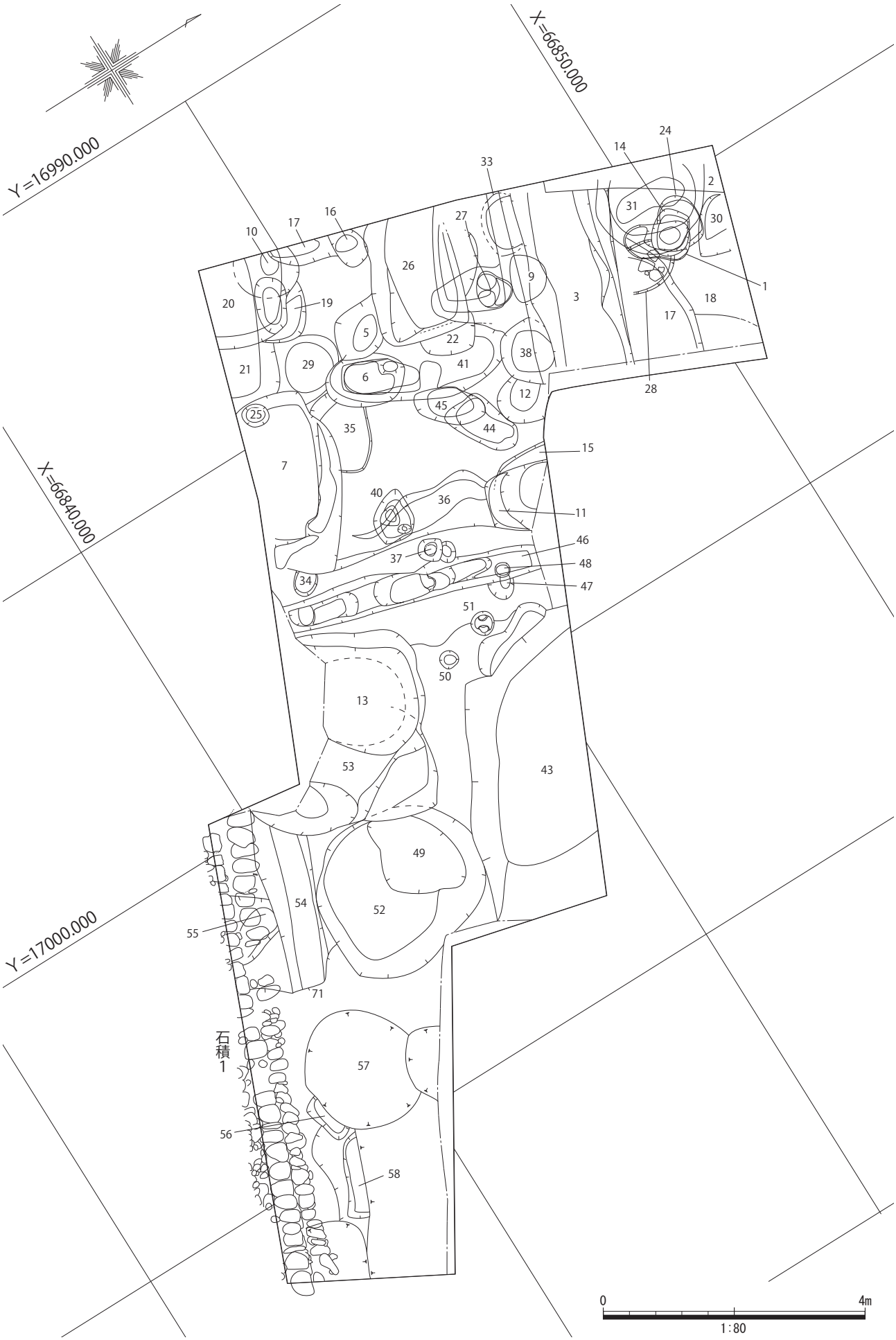
遺構番号	最大幅(㎝)	最大深(㎝)	備　　考
1	105	7	S-14、17、24、2を切る。
2	270		S-31を切る。染付（雷文帯）
3	280	78.8	調査区外へ。くらわんか、広東碗（19世紀）
4	欠番		S-26と同一遺構　唐津皿、陶胎染付、染付（一重網目文、くらわんか）
5	120	29.8	26に切られる。6を切る。
6	125	44.2	5に切られる。
7	278	87.3	S-29、31、35、34を切る。調査区外へ。
8	欠番		S-40検出時の番号
9	73	4.7	S-3に切られる。京焼風段重
10	160	31.8	19を切る。調査区外へ。銅緑釉皿、京焼風碗
11	100	28.3	S-15に切られる。調査区外へ。呉器手碗、染付（くらわんか）
12	74	17.7	S-38に切られる。ホウロク
13	190	140.2	S-53に切られる。湧水の為未完掘　呉器手碗、染付（くらわんか、初期伊万里）
14	81	10.7	S-1に切られる。S-24･18を切る。呉器手碗
15	105	1.9	S-11を切る。調査区外へ。
16	60	54.2	調査区外へ。天目破片
17	93	74.5	10、16に切られる。調査区外へ。
18	88	27	S-14に切られる。調査区外へ。
19	85	7.8	10、20に切られる。
20	236	46	10、7に切られる。調査区外へ。瀬戸美濃皿、備前甕
21	(90)		S-7、10、20、29に切られる。
22	90	5.7	26に切られる。
23	欠番		S-26と同一遺構　胎土目皿

表３　29次調査遺構観察表２

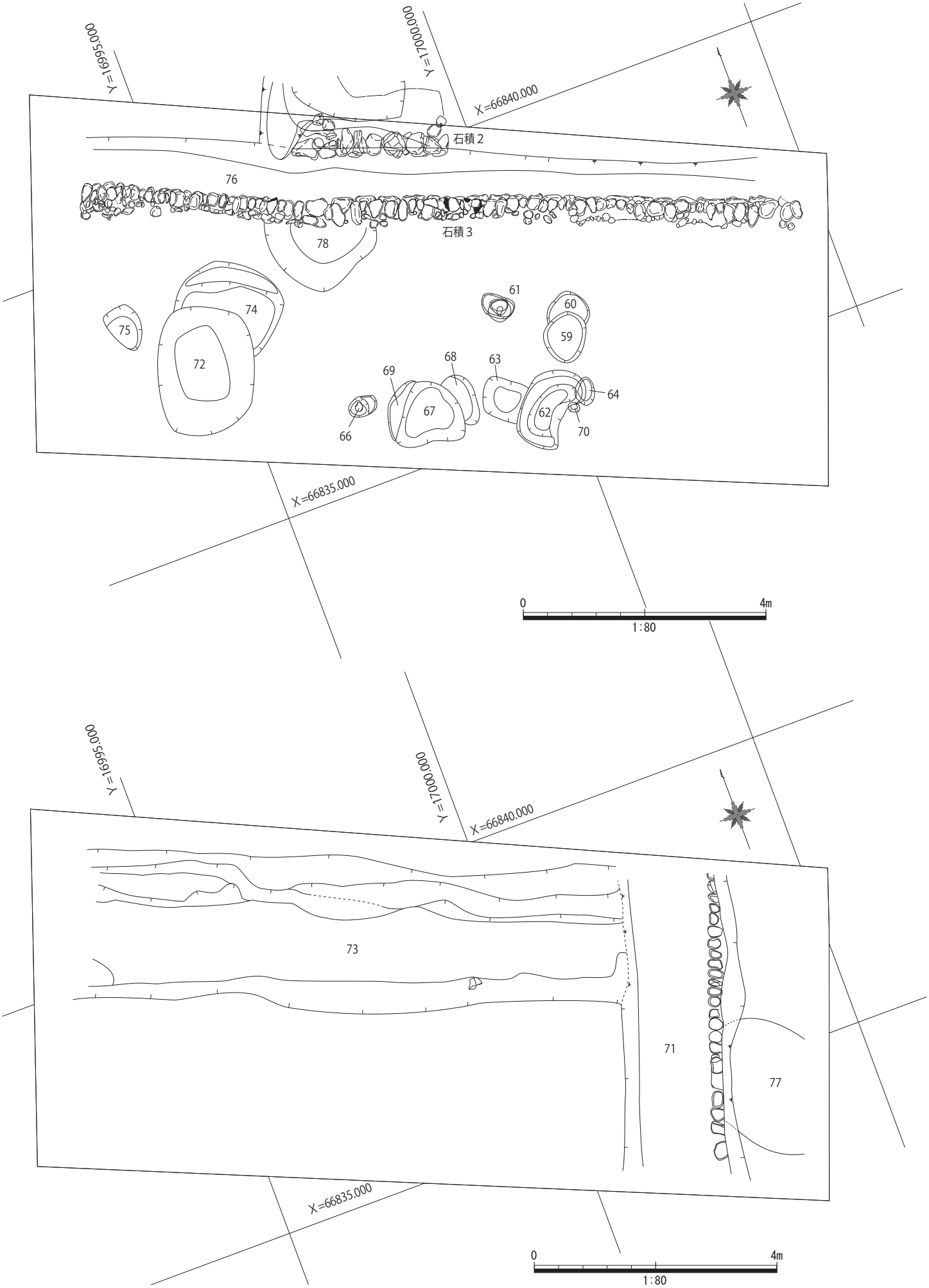
遺構番号	最大幅(cm)	最大深(cm)	備　　考
24	71	14.1	S-14、S-28、31を切る。
25	40	54.6	S-7を切る。
26	194	63.4	22、27、5、6を切る。調査区外へ。京焼風碗、鬢盥
27	100	24.3	26に切られる。
28	72	12.6	24、3に切られる。
29	102	19.1	6、19、7、20に切られる。
30	96	30.2	S-24に切られる。
31	160＋α	91.3	S-1、14、17、24、28に切られる。陶胎染付
32	欠番		
33	97	27.7	S-3に切られる。調査区外へ。
34	40	21	S-7に切られる。
35	130		6、7に切られる。漳州破片
36	220	8.2	S-11に切られる。
37	37	41.2	断面あり。
38	104	34.6	S-12、S-3を切る。
39	欠番		
40	172	22	焼土
41	289	40.9	S-6、S-22、S-38に切られる。S-29、35、45を切る。染付（一重網目文）
42	欠番		
43	470	86.5	調査区外へ。染付（雷文帯、源氏香文、くらわんか）箱庭道具
44	115	18	S-45を切り、12に切られる。
45	110	25.9	S-41、44に切られる。
46	390	47.1	S-47を切る。調査区外へ。染付（見込蛇の目釉はぎ碗）
47	40	19.5	S-46に切られる。
48	23	18.6	S-46を切る。
49	168	97.5	S-52と重複、新旧は不明　京焼風碗、呉器手碗、陶胎染付、初期伊万里
50	300	37.1	土錘
51	37	30.8	
52	232	99	S-49と重複、新旧は不明

表４　29次調査遺構観察表３

遺構番号	最大幅(cm)	最大深(cm)	備　　考
53	288	121.8	S-13、54を切る。呉器手碗、初期伊万里など
54	285	42.6	S-53に切られる。
55	95	13.9	S-54に切られる。調査区外へ。
56	75	21.3	井戸に切られる。
57	278	81	S-43、57に切られる。
58	134	16.2	カクランに切られる。調査区外へ。
59	83	7.7	60を切る。
60	50	6.4	59に切られる。
61	59	49	
62	135	22.4	63を切り、64、70に切られる。
63	68	24.9	62に切られる。
64	47	8.1	62を切る。
65	図無		
66	48	45.5	石混入
67	108	23.7	75と68を切る。備前小坏
68	88	9.5	67に切られる。
69	104	0.8	67に切られる。
70	20	13.9	62を切る。
71	505	72.6	73、77を切る。調査区外へ。石列　青花碗・皿　瀬戸美濃皿
72	198	84.9	74を切る。陶器碗、初期伊万里、漳州など
73	910	73.9	73に切られる。調査区外へ。胎土目皿、瀬戸美濃皿、上野・高取皿、初期伊万里か漳州
74	170	22.7	72に切られる。上野・高取、土師器など
75	75	15.1	土師器、瓦質土器
76	幅55	50	石積3の片側　呉器手碗、染付(くらわんか)
77	202	14.6	71に切られる。調査区外へ。砂の堆積の為未掘
78	186	33.7	石積3に切られる。S-73を切る。陶器碗、胎土目皿、天目破片
石積1		残存高35	背割水路
石積2		残存高35	
石積3		残存高50	

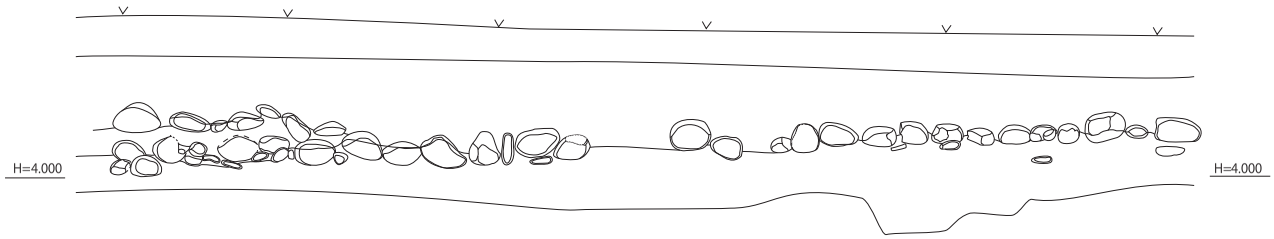


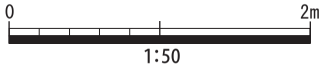
第５図　29次北側調査区（1:80）



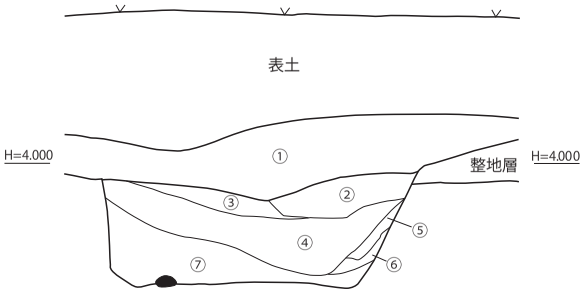
第6図　29次南側調査区上層（左）・下層（右）(1:80)

石積１



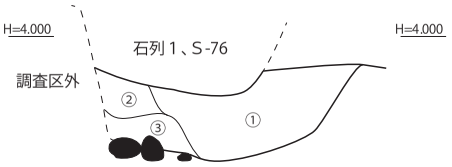


S-71



① 黒褐色土、炭・焼土混しまり弱
② 暗褐色土、炭・焼土混拳大礫混
③ 灰黄色細砂　しまり強
④ 暗灰色粘質土　しまり強
⑤ ④に地山ブロックが 50%混
⑥ 地山ブロック
⑦ 黄灰色細砂
整地層　灰黄色細砂　しまり強

S-73



① 暗灰色細砂
② 黒褐色粘質土
③ 灰黄褐色粘質土

石積２

石積３

第７図　29次調査区個別遺構図（S -71、73、石積１、２、３　1:50）

（３）出土遺物（第８～12図、表５・６）

表５　29次調査図化遺物観察表１

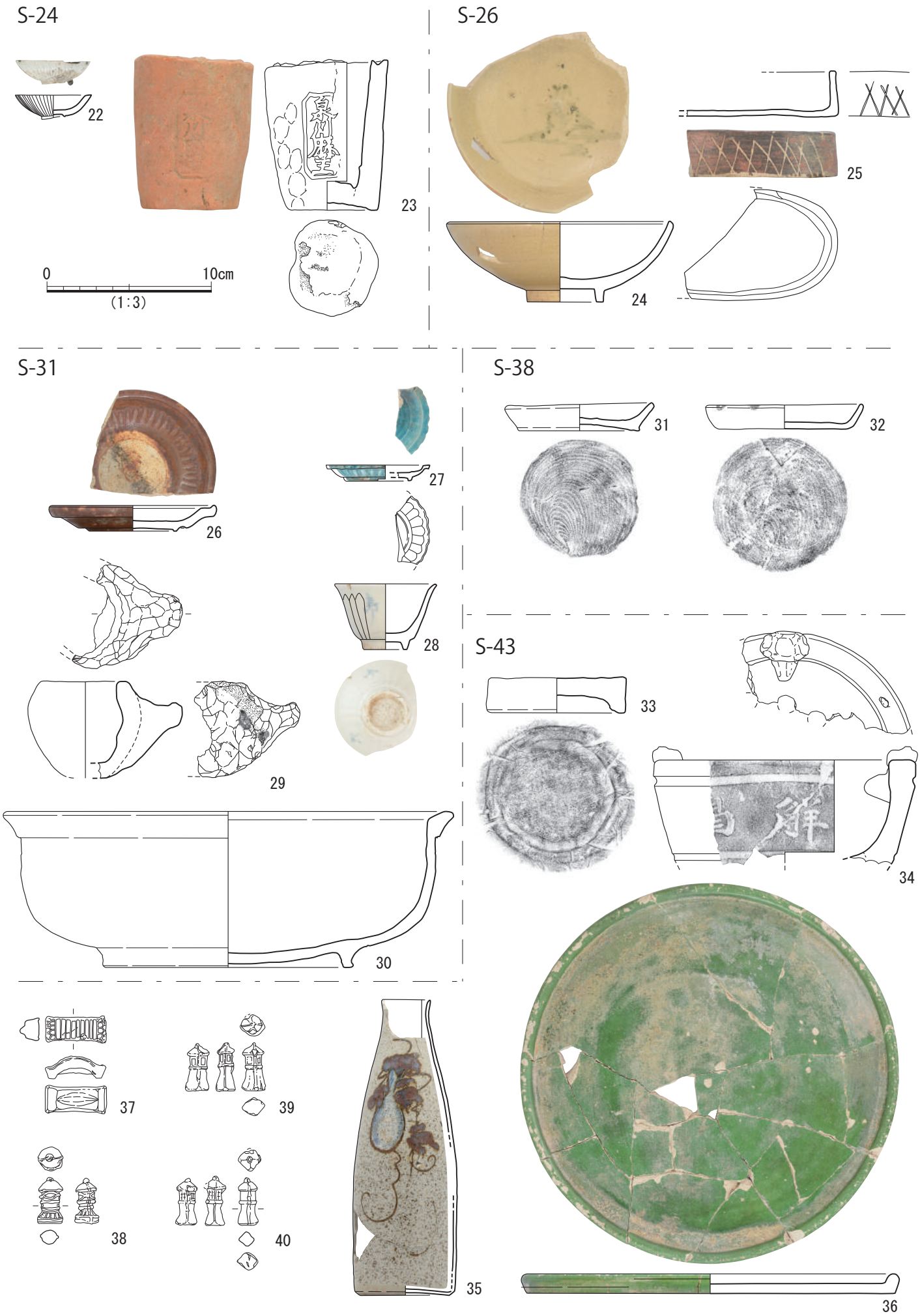
No.	遺構番号	種別･器種	法量(cm)			装飾		製作年代	備考	図No.
			口径	器高	底径	絵付釉薬	文様			
1	S−3	土師器･小皿	6.3	1.3	2.8	透明釉			底部穿孔あり	8
2	S−3	磁器･小鉢	9.0	5.1	3.2	透明釉			鉄絵あり	
3	S−3	陶器･徳利	1.9	12.3	4.8					
4	S−3	陶器･擂鉢	18.2	6.8	9.0				堺産	
5	S−3	青磁･大皿	(28.5)	5.3	14.1	青磁釉	草花文	17世紀後半		
6	S−3	磁器･鉢	18.0	7.9	8.6	透明釉	唐草　ワラビ手	18世紀後半	見込二重圏線　高台三重圏線	
7	S−5	土師器･皿	9.0	1.7	6.5				口唇部スス付着	9
8	S−9	磁器･小鉢	7.4	3.6	3.2	乳白色釉				
9	S−6	陶器･皿	12.8	3.1	4.2	緑灰色釉	線描の草	17世紀後半	内面に蛇の目釉剥ぎあり	
10	S−6	銭	2.5	0.1						
11	S−7	陶器･皿	(14.6)	3.4	6.2	透明釉	波状	17世紀後半	砂目痕4ヶ所あり	
12	S−7	陶器･皿	13.3	3.4	4.4	施釉		17世紀後半	両側砂目痕あり	
13	S−10	陶器･小皿	10.8	2.5	3.6	透明釉			見込胎止め3ヶ所　3本平行な沈線あり	
14	S−10	磁器･小鉢	7.0	3.7	2.8	透明釉	草木		見込二重圏線　口縁部口紅状圏線　瀬戸美濃か	
15	S−13･53	陶器･中皿	14.4	3.7	4.8	透明釉			見込砂目痕、蛇の目釉剥ぎあり	
16	S−13	陶器･皿	13.2	4.8	3.4	透明釉			見込砂目痕、蛇の目釉剥ぎあり	
17	S−13	陶器･中皿	(16.4)	5.6	5.4	乳白色釉			見込砂目痕、蛇の目釉剥ぎあり	
18	S−13	陶器･碗	11.4	6.2	5.0	透明釉			底部に刻印あり	
19	S−13	磁器･皿	13.7	2.9	6.4	透明釉	矩形		染付あり	
20	S−13	磁器･鶴首瓶	1.9	13.8	4.8	透明釉	草木		高台内二重方形枠内渦福	
21	S−13･49	陶器･擂鉢	(31.2)	13.0	(15.0)				外面ヘラ削り痕　注口部あり	
22	S−24	磁器･紅皿	4.6	1.6	1.5	透明釉			高台脇胎止め	10
23	S−26	土師器･塩壷	7.5	9.2	5.4				内面布目痕　外面指頭圧痕「泉州麻生」	
24	S−26	陶器･皿	13.8	4.9	4.9	透明釉			見込描画あり	
25	S−26	磁器･鬢盥	9.2	2.8	6.4	透明釉･褐釉			外面×字状ヘラ書きあり	
26	S−31	陶器･小皿	(10.2)	1.6	(5.4)	褐釉			内面削り模様あり	
27	S−31	磁器	(6.3)	1.0	(4.0)	瑠璃釉		16世紀後半	口縁輪花状　体部蓮弁状	
28	S−31	白磁･猪口	(6.2)	(4.0)	2.6	透明釉			外面蓮弁状ヘラ削り	
29	S−31	土師器･ルツボ	(5.3)	(5.8)					外面黒、赤褐色付着	
30	S−31	瓦質土器･鉢	(27.4)	9.5	(15.2)				底部回転ヘラ削り	
31	S−38	土師器･皿	9.1	1.6	7.4					
32	S−38	土師器･灯明皿	9.6	1.5	8.0				口縁部スス付着	
33	S−43	土師器･塩壷蓋	8.5	2.2	8.4				内面布目痕	
34	S−43	土師器･コンロ	16.2						側面漢字印字あり	
35	S−43	磁器･徳利	3.0	18.0	6.3	透明釉	瓢箪･つる草			
36	S−43	陶器･盤	23.0	2.2	22.2	緑釉				
37	S−43	土師器･土人形	3.4	1.4	1.6				型押し(たいこ橋)	
38	S−43	土師器･土人形	1.4	2.8	1.4				型押し(灯篭)	
39	S−43	土師器･土人形	1.5	2.8	1.2				型押し(灯篭)	
40	S−43	土師器･土人形	1.3	2.9	1.1				型押し(灯篭)	

表６　29次調査図化遺物観察表２

No.	遺構番号	種別･器種	法量(cm)			装飾		製作年代	備考	図No.
			口径	器高	底径	絵付釉薬	文様			
41	S−43下	磁器･大皿	30.5	5.0	18.8	透明釉	牡丹唐草	17世紀中葉	見込二重圏線　口縁部縁どり染付	11
42	S−43下	磁器･碗	9.4	4.8	3.7	透明釉	ツボミの草木		口縁部口紅　胴部金継ぎあり	
43	S−46	磁器･碗	9.8	5.3	4.9	透明釉			染付線・一重圏線	
44	S−49	土師器･灯明皿	15.0	2.9	11.0				口縁部スス付着	
45	S−49	磁器･皿	(14.4)	2.9	8.4	施釉	唐草		見込寿あり	
46	S−49	土師器･塩壺	5.9	8.9	5.6				底部円板貼り付け	
47	S−49	土師器･土錘	2.5	6.0	0.8				重量32.6g	
48	S−49	銭	2.5	0.1						
49	S−49･53	磁器･皿	(20.7)	2.8	(11.5)	施釉	草花	17世紀前半	高台砂目痕　底部トチン付着	
50	S−50	土師器･土錘	1.3	3.7					重量6.8g	
51	S−52	土師器･人形	2.2	4.0		透明釉	波状		底部穴あり	
52	S−52	銭	2.5	0.1						
53	S−53	土師器･灯明皿	10.2	1.5	7.8				口縁部スス付着	
54	S−72	土師器･皿	10.5	2.0	7.4					
55	S−72	土師器･皿	10.8	2.0	7.5					
56	S−72	陶器･皿	13.8	3.3	5.6					
57	S−72	土師器･犬		7.5						
58	S−71	陶器･小皿	10.2	2.2	5.8	灰釉		16世紀後半	内面蛇の目釉　底部胎止め痕　瀬戸美濃	12
59	S−71	磁器･碗	(14.7)	5.2	(5.8)	透明釉	二重圏線	16世紀後半	回転ヨコナデ　底部糸切り痕　景徳鎮窯	
60	S−71	陶器･大皿	9.0	8.3	11.8	灰白色釉		17世紀初め	内面砂目痕　唐津	
61	S−73	土師器･皿	11.8	2.0	7.4			17世紀初め	回転ヨコナデ　底部板状厚痕　唐津	
62	S−73	土師器･皿	10.8	2.2	7.7				内外面回転ヨコナデ　糸切り痕	
63	S−73	土師器･皿	10.7	2.3	7.7				内外面回転ヨコナデ　底部糸切り痕	
64	S−73	陶器･皿		(3.5)	4.3	暗灰緑釉	松葉状		唐津	
65	S−73	陶器･建水	19.0	15.0					備前	
66	S−78	陶器･碗	(10.5)	7.4	4.8	透明釉				
67	石積3	瓦器･香炉	(19.0)	11.0					外面ヘラ磨き　内面回転ナデ	

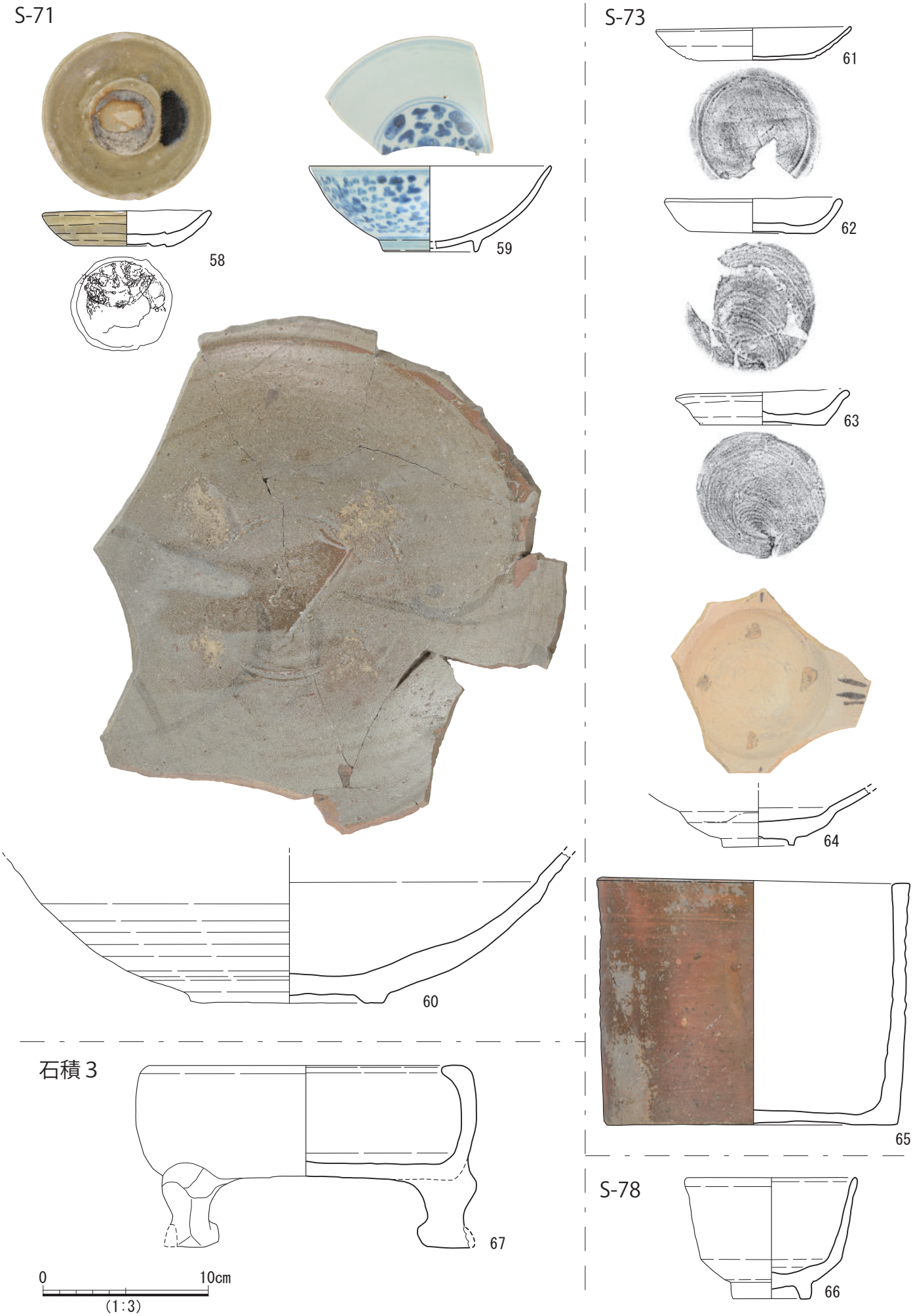
第８図　29次調査区出土遺物１（1:3）

第９図　29次調査区出土遺物２（1:3、10は1:2）



第10図　29次調査区出土遺物３（1:3）

第11図　29次調査区出土遺物４（1:3、48は1:2）



第12図　29次調査区出土遺物５（1:3）

２　31次調査１区（第13～17図、表７・８）

（１）調査の概要

調査地は幕末の絵図では「桑名内記」の屋敷にあたる。解体が終了した旧民家部分の正方形区画の調査を先行させ、西側の小範囲については既存病院施設が未撤去であったため解体後に調査した。調査面積413㎡、検出した遺構は土坑30基、井戸５基、集石・敷石遺構４基、埋甕２基、性格不明遺構１基である。集石・敷石遺構は上面・下層に小石主体の礫が多く確認された遺構であり、上面に石を敷いた敷石遺構は、出土遺物から近代のものと考えられる。建物基礎を受ける地盤改良の跡であろう。遺構は18世紀後半代のものが主体を占めるが、一部17世紀前半代の遺構があり、２号埋甕も同時期の遺物と考えられる。

（２）基本層序（第14図）

基本層序を北壁土層を用いて解説する。Ⅰ層は現代の整地層。Ⅱ層は暗茶褐色粘質土。Ⅲ層は黄褐色粘質土。多くの遺構はⅡ～Ⅲ層の標高4.0～4.2ｍ付近から構築されている。

（３）おもな遺構（第13図）

Ｓ-19（第16図）

調査区北東端に位置し一部調査区外に及ぶ土坑である。底の立ち上がりは急である。肥前系磁器溝縁皿、上野・高取系の水差と鉢などが出土している。いずれの資料も17世紀前半代の所産と考えられる。水差については、ベトナム産の南蛮縄簾細水差と器形が似ており模倣品の可能性がある。[1]

註１　吉田寛氏（大分県立埋蔵文化財センター）、坪根伸也氏（大分市教育委員会）のご教示。

Ｓ-24（第17図）

S24は調査区の北側で検出された。最大幅194㎝、最大深16㎝で浅い皿状に掘り込まれる。S47を切り、暗灰色の単一層である。発掘時にS47との切り合いが不明であったため南側半分は土層からラインを復元した。出土遺物は土師器の小皿が50枚まとまった状態で出土した。小皿は北側から一括廃棄されたものと推測される。

性格不明遺構（SX-1）（第13・14図）

調査区北端に位置する。長さ９ｍを測り、一部は調査区外に及ぶ。上層は礫を含む近代の遺構により破壊されている。下層は、多量の炭が混入する焼土層が厚さ80㎝で堆積していた。遺物は、肥前系磁器碗、備前系水甕、軒平・軒丸瓦が出土している。肥前系磁器碗は16世紀末の景徳鎮産であろうか。軒丸瓦は、R-25であり、珠文は中津城跡出土軒丸瓦より多い。[2] 軒平瓦の中心飾りは菱文を呈する。これも中津城跡では確認されていない資料である。瓦は被熱し茶褐色に変色している。当該遺構は16世紀末～17世紀前半頃の火災処理遺構と考えられる。

註２　中津市教育委員会「中津城本丸南西石垣（Ⅳ）」中津市文化財調査報告第37集参照。

ＳＥ（第13・17図）

確認した井戸跡は５基。川原石を湧水点から積み上げる方法で構築され、全ての井戸は空間部直径80㎝、深さ約２ｍである。当該調査区では標高２ｍで湧水することがわかる。SE1・３などから18世紀後半代からの遺物が出土しており、その頃に複数の井戸が存在したと考えられる。SE4は近代まで使用されたらしく、内部から鉄製品や針金、ガラスなどが見つかっている。

２号埋甕（第13図）

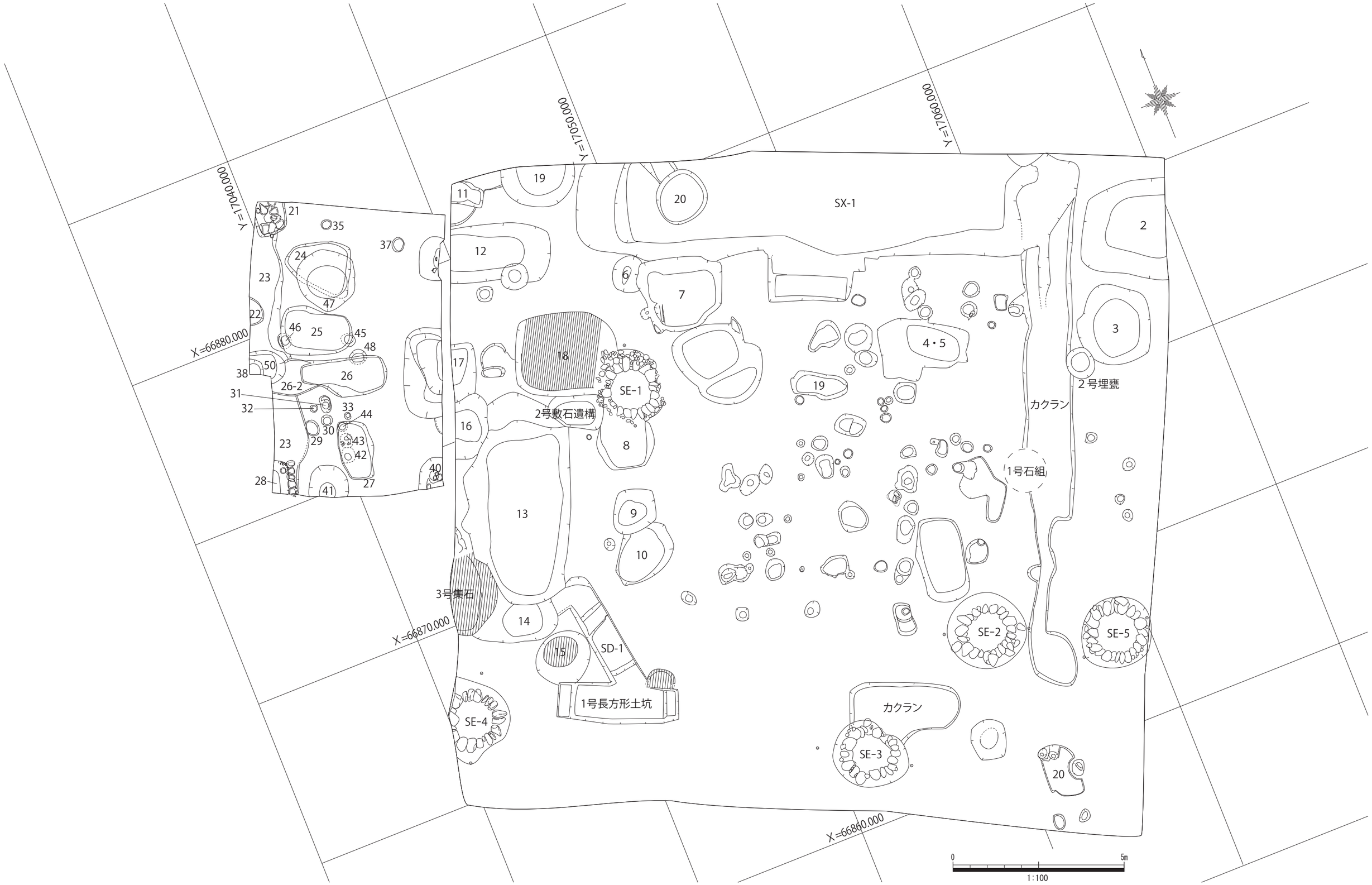
調査区北東端で検出した埋甕遺構である。備前焼の大型甕が収まるサイズの土坑を掘り、据え置いている。埋土から甕の口縁部や円礫が小数出土している。甕は16世紀代の製作と考えられる。

表７　31次1区調査遺構観察表１

遺構番号	最大幅(cm)	最大深(cm)	備　　考
S-2	210	57	近代
S-3	178	52	2号埋甕に切られる。瓦溜り。18世紀後半～19世紀代
S-4･5	204	54	18世紀後半～19世紀代
S-6	80	23	S-7に切られる。
S-7	188	49	18世紀後半～。
S-8	108+α	25	SE-1･2号敷石遺構に切られる。18世紀後半～19世紀代。
S-9	94	36	S-10を切る。近代
S-10	158	19	S-9に切られる。18世紀後半～19世紀代。
S-11	92+α	25	
S-12	220	92	内部に1号埋甕あり。18世紀後半～19世紀代。
S-13	464	71	S-14を切る。S-16に切られる。18世紀後半～19世紀代。
S-14	160+α	41	S-13･3号集石に切られる。18世紀後半～19世紀代。
S-15	189	-	未掘。集石部あり(2号集石)。近代
S-16	148	60	S-13を切る。近代?
S-17	128	69	
S-18	220	82	SE-1に切られる。18世紀後半～19世紀代。
S-19	140	87	上野･高取系遺物出土。17世紀前半代。
S-20	120	54	
S-21	98+α	28	10～40cm程の礫を多数含む。S-23を切る。
S-22	83+α	7	淡褐色土。単一層。S-23を切る。
S-23	766+α	12	S-21、22、24、25、26、28、50に切られる。暗灰褐色単一層。県道に直交する。溝状遺構
S-24	194	16	S-47を切る。土師質の小皿が50枚一括廃棄
S-25	212	14	S-23、45、46を切る。貝殻などを含む。暗灰褐色土単一層。
S-26	342+α	18	S-23、48を切る。淡灰褐色単一層。焼土、炭化物を少含む。
S-27	186	12	暗灰褐色単一層
S-28	105+α	31	石列1に切られる。褐色土層。
S-29	50+α	13	淡褐色土層。ピット。

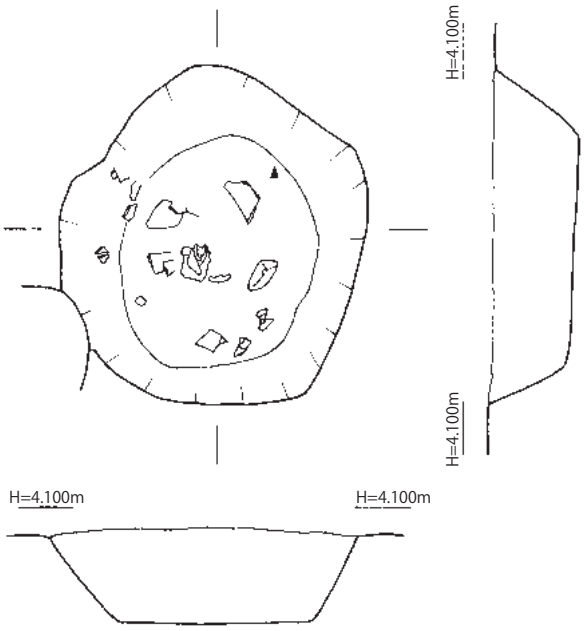
表８　31次1区調査遺構観察表２

遺構番号	最大幅(cm)	最大深(cm)	備　　考
S-30	33	50	淡褐色土層。ピット。
S-31	50	54	淡褐色土層。柱穴?
S-32	24	47	淡褐色土層。ピット。
S-33	20	8	淡褐色土層。ピット。
S-34	欠番	―	遺構でないと判断。
S-35	32	6	淡褐色土。焼土を含む。
S-36	欠番	―	遺構でないと判断。
S-37	40	7	淡褐色土。ピット。
S-38	62+α	19	暗灰褐色土。炭化物を多く含む。S-50を切る。
S-39	12	4	暗灰褐色土。ピット。
S-40	115+α	67	暗灰黒色土。S-51を切る。
S-41	120+α	54	暗灰褐色土。炭化物、焼土を少含む。瓦質の甕が据えられる。
S-42	50+α	33	暗灰褐色土。S-27を切る。
S-43	42	46	淡灰褐色土。焼土小含む。S-42との切り合い不明。
S-44	32+α	34	淡灰褐色土。炭化物、焼土含む。
S-45	42+α	71	褐色土黄色土混じり。S-46とセットか。
S-46	46+α	74	褐色土黄色土混じり。S-45とセットか。
S-47	179	122	S-24に切られる。
S-48	50	44	柱穴。土層で柱痕が残る。
S-49	欠番	―	遺構でないと判断。
S-50	111+α	18	淡灰褐色土層。S-23を切る。S-38に切られる。
SE-1	150	210	S-8、18を切る。18世紀後半～19世紀代。
SE-2	177	64+α	
SE-3	146	144+α	
SE-4	174	196	
SE-5	166	110+α	
1号集石	60	―	
3号集石	168	―	
1号埋甕	70	―	
2号埋甕	68	24	
2号敷石遺構	120	56	18世紀後半～。
SX-1	900×214+α	56	16世紀末～17世紀初頭か。

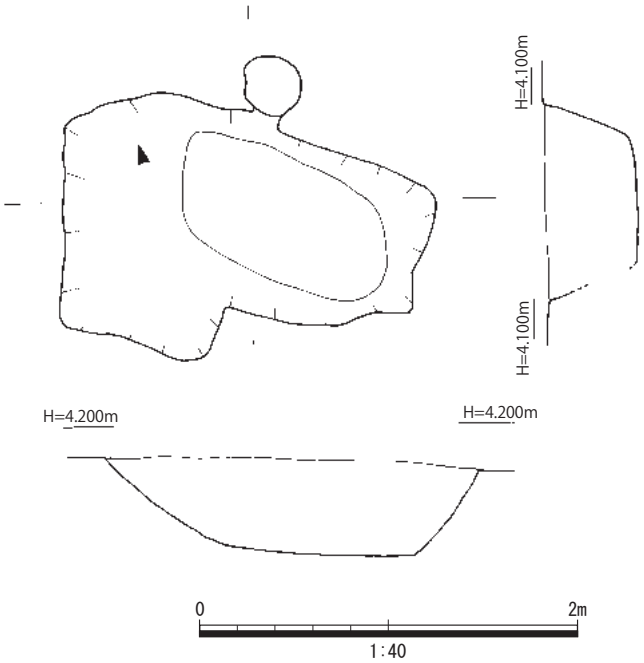


第13図　31次1区調査区（1:100）

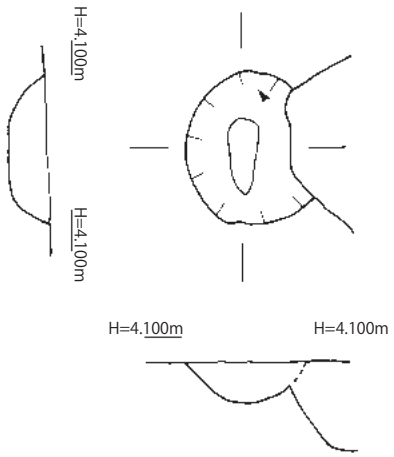
S-3



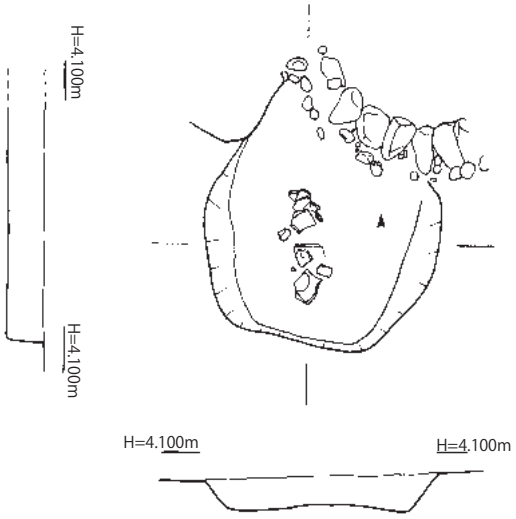
S-5



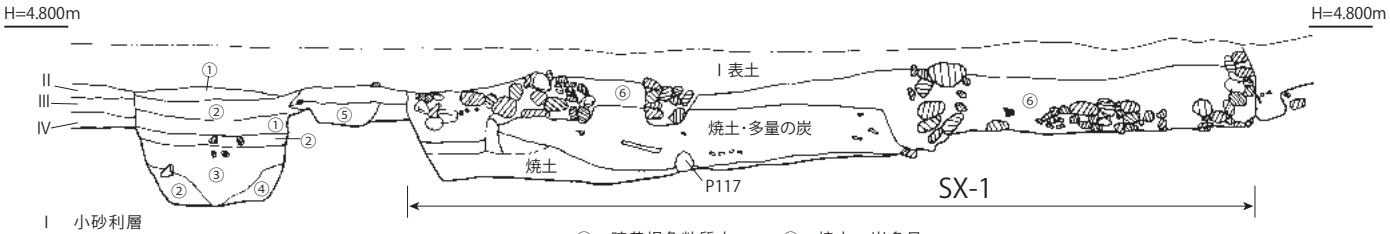
S-6



S-8



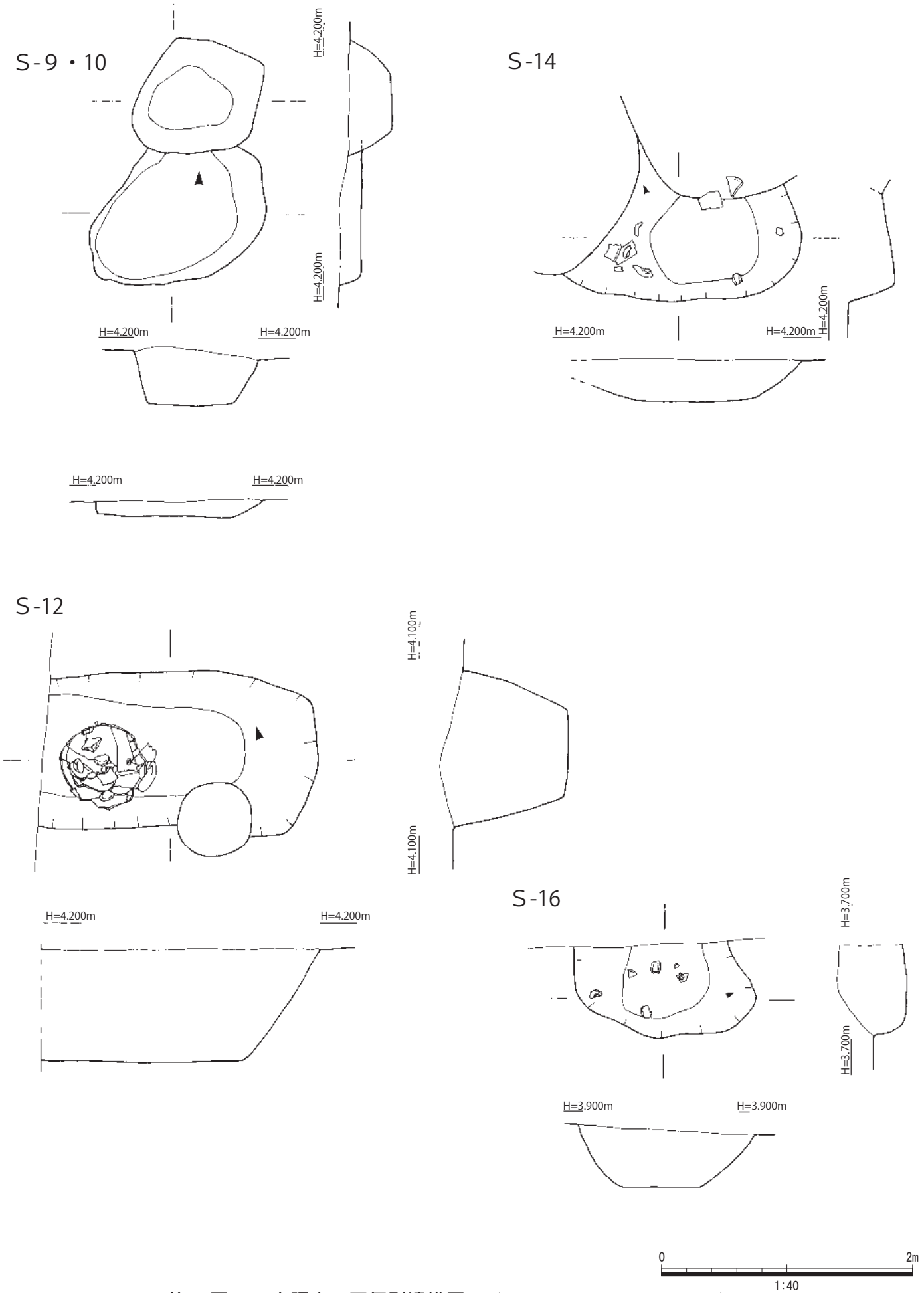
北壁土層



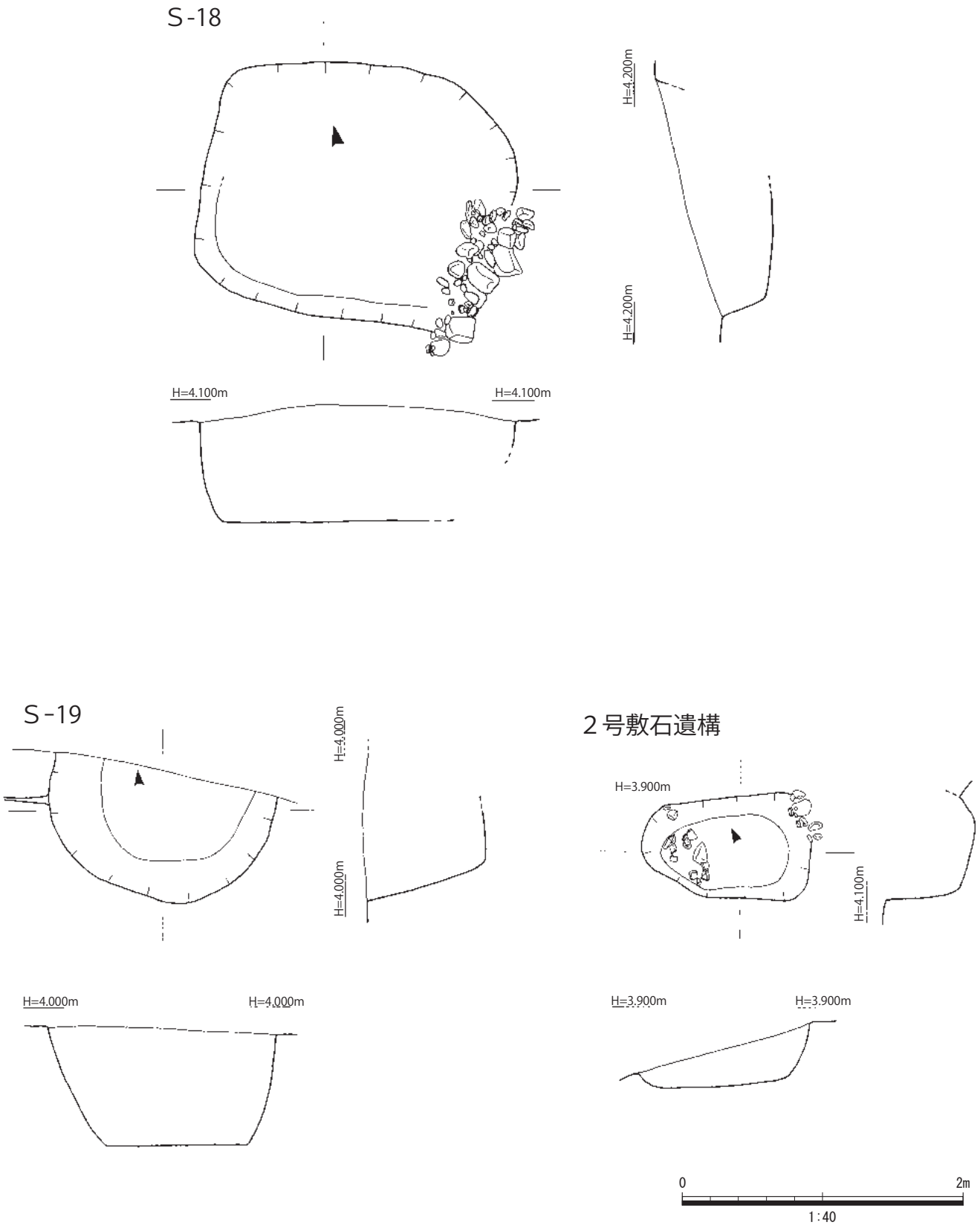
Ⅰ　小砂利層
Ⅱ　暗茶褐色粘質土　焼土・炭　ややしまり弱
Ⅲ　黄褐色粘質土
Ⅳ　暗褐色粘質土（遺構検出面）

①　暗黄褐色粘質土
②　暗褐色粘質土
③　黒褐色粘質土
④　黄褐色粘質土
⑤　焼土・炭多量
⑥　茶褐色粘質土

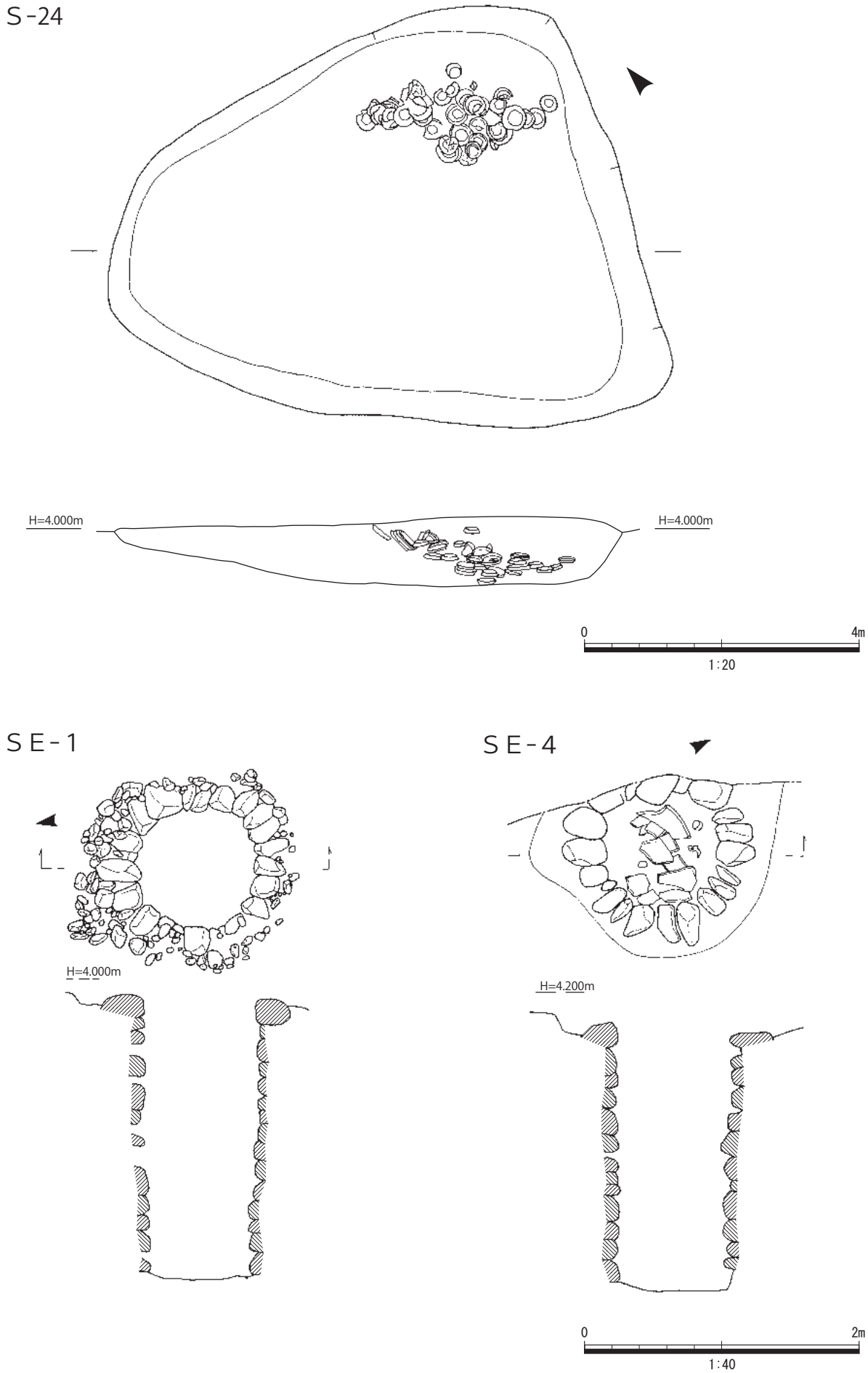
第14図　31次調査１区個別遺構図１（S-3・5・6・8・北壁土層　1:40）



第15図　31次調査１区個別遺構図２（S-9・10・12・14・16　1:40）



第16図　31次調査１区個別遺構図３（S-18・19・２号敷石遺構　1:40）



第17図　31次調査１区個別遺構図４（S-24　1:20、SE-1・4　1:40）

（３）出土遺物（第18～24図、表９～11）

表９　31次1区調査図化遺物観察表１

No.	遺構番号	種別・器種	法量(cm)			装飾		製作年代	備考	図No.
			口径	器高	底径	絵付釉薬	文様			
1	S−2	陶器・擂鉢	(32.6)	(5.7)					内外面ナデ	
2	S−3	陶器・急須	9.0	11.6	8.2	赤土透明釉			回転ヘラ削り	
3	S−5	土師器・皿	7.7	1.2	6.0				内面回転ヨコナデ　外面糸切り痕	
4	S−5	磁器・蓋	(13.8)	(14.8)	(3.2)	透明釉	草花	18世紀後半～		
5	S−6	磁器・碗	(10.8)	(4.8)	5.8	透明釉	龍?		内面二重圏線　見込二重圏線	
6	S−7	陶器・皿	(19.4)	(5.0)	(7.0)	透明釉			内面トチン残ある	
7	S−7	磁器・猪口	4.8	2.3	2.8	透明釉		18世紀後半～		
8	S−7	磁器・皿	(10.4)	1.9	6.4	透明釉	五弁花	18世紀後半～	高台内蛇の目釉剥ぎ	
9	S−7	磁器・碗	(8.4)	(5.6)	(3.6)	透明釉	五弁花	18世紀後半～	内面菱形連続　外面矢羽文	
10	S−7	陶器・碗	(11.8)	(8.3)	4.8			18世紀後半～		
11	S−7	陶器・擂鉢	(21.0)	(9.4)	7.3				内面クシ目あり　外面ヘラ削り	
12	S−7	陶器・擂鉢		(6.8)		施釉			口縁部暗灰紫色釉	
13	S−7	赤間石・硯		2.5	14.8				一部白く変色している	
14	S−7	銭								
15	S−8	青磁・壺	(31.4)				格子、半円		頸部に格子文様と半円文様あり　ヘラ削り	
16	S−8	土師器・コンロ		(12.0)						
17	S−8	磁器・鶴首染付瓶		8.4	4.4	透明釉	タコ唐草		タコ唐草文様	
18	S−9	土製品・鳩人形	2.7	(5.5)	(3.5)				底部に中空あり	
19	S−9	陶器・埦	(10.8)	5.9	6.4	褐釉			外面に馬?形　把手あり	
20	S−10	土師器・鉢		6.9					内面ミガキ　外面ヘラ削り	
21	S−12	土師器・皿	10.4	1.9	8.0				内外面回転ヨコナデ　底部糸切り痕あり	
22	S−12	土師器・皿	(12.0)	1.7	(6.0)				内面見込圏線	
23	S−12	磁器・碗	10.2	5.9	4.2	透明釉				
24	S−12	陶器・碗	12.0	7.7	5.3	鉄釉			露胎	
25	S−12	磁器・碗	13.0	7.7	5.4	透明釉			外面重ね焼き痕あり	
26	S−12	陶器・碗	12.6	8.1	5.6	乳白色釉	山水		内外面貫入あり	
27	S−12	磁器・猪口	7.5	5.2	3.4	透明釉				
28	S−12	陶器・高台付き皿	24.0	4.9	10.0	透明釉			貫入あり	
29	S−12	陶器・長頸瓶		(22.0)	7.8	褐釉			回転ヘラケズリ　高台釉剥ぎ　福岡?	
30	S−12	陶器・擂鉢		(15.7)					外面ヘラケズリ	
31	S−13	陶器・擂鉢	(24.0)	(8.4)	10.4				内面クシ目あり　底部糸切り痕	
32	S−13	瓦質土器・こね鉢	33.0	9.0	15.0				内面ナデ　外面回転ヘラ削り	
33	S−13	土師器・皿	9.5	2.1	7.1				内面にスス付着　底部糸切り痕あり	
34	S−13	土師器・小皿	9.7	1.8	7.6				外面スス付着　底部糸切り痕あり	
35	S−13	陶器・蓋	11.5	2.8		自然釉			回転ナデ　ヘラ削り	
36	S−13	磁器・碗	8.6	4.8	3.4				高台中央に大明年製の銘あり	
37	S−14	瓦・軒丸瓦	14.5	1.7	1.8				布目痕　三つ巴	
38	S−19	胴製品・キセル	5.5	1.4	5.5		梅花			
39	S−15	磁器・皿	(22.2)	(2.9)		透明釉	草花		藍染付	
40	S−16	陶器・擂鉢		(13.7)		暗褐色釉			節目は1単位3.0㎝で13条	
41	S−16	陶器・擂鉢	(35.2)	13.6	(17.3)					
42	S−16	陶器・碗		(3.9)	(5.2)	施釉			施釉部分に貫入	

表10　31次1区調査図化遺物観察表２

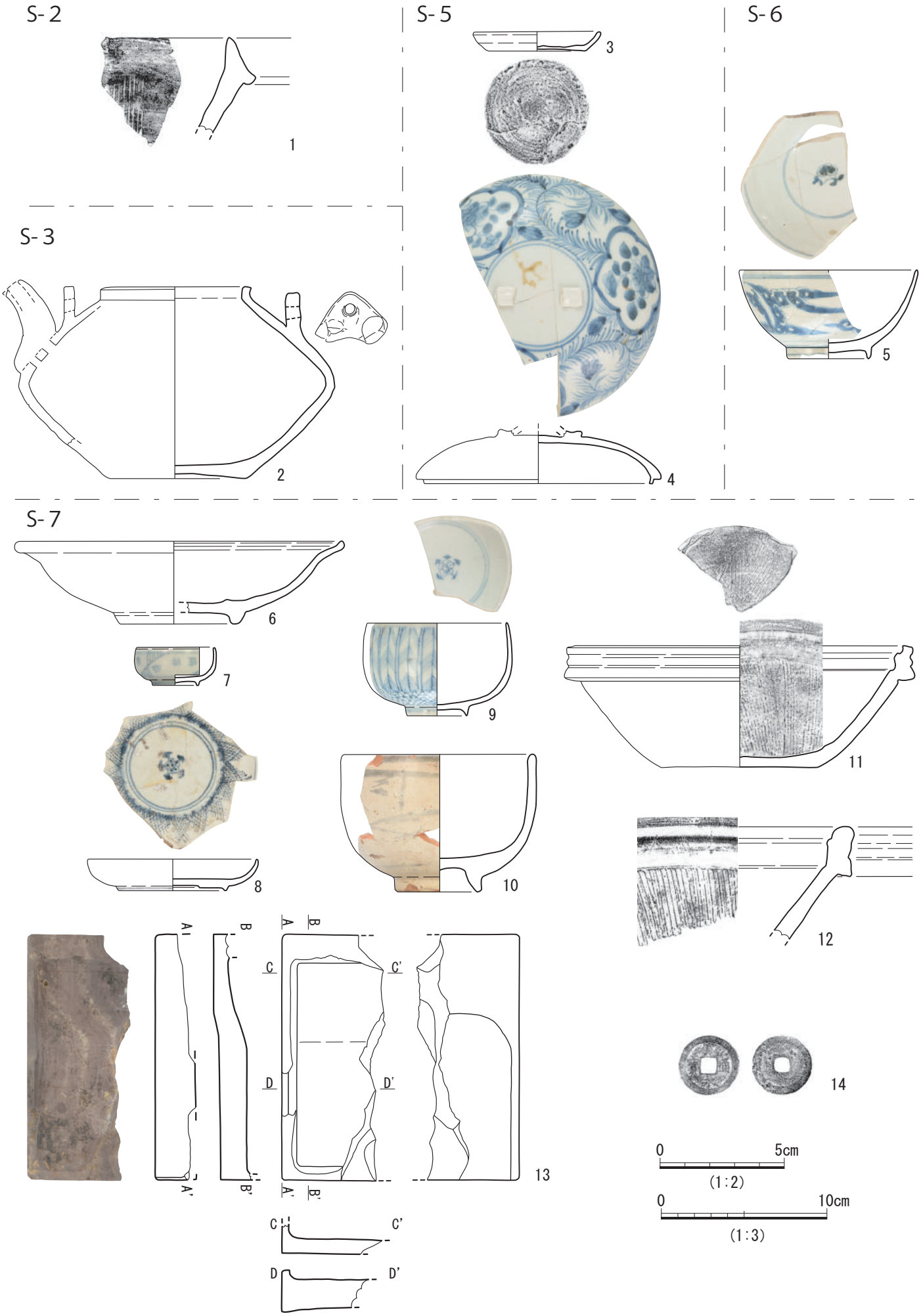
No.	遺構番号	種別・器種	法量(cm)			装飾		製作年代	備考	図No.
			口径	器高	底径	絵付釉薬	文様			
43	S−16	磁器・碗			4.2	透明釉	菊花・唐草		底部染付文字あり	
44	S−16	陶器・蓋		3.2		褐釉			底部糸切り痕	
45	S−16	陶器・壺		(9.0)	9.5				回転ヨコナデ	
46	S−16	陶器・擂鉢		(13.1)					内面クシ目　外面口縁部沈線あり	
47	S−16	瓦・軒先瓦		(11.2)	2.3		瓦当・左三巴・珠		珠文は12個	
48	S−16	瓦・軒先瓦		(13.9)	2.3		瓦当・左三巴・珠		珠文は13個	
49	S−18	磁器・碗	(9.0)	4.9	(2.2)	透明釉	草木		高台に二重圏線	
50	S−19	陶器・皿	(12.4)	3.0	(5.2)	透明釉			高台に砂目痕	
51	S−19	陶器・水差し	(16.4)	16.6	(14.4)	鉄釉		17世紀前半	灰白色で釉薬が変色　上野・高取	
52	S−19	陶器・不明		(5.8)		乳白色釉			底部胎止め　上野・高取	
53	S−25	陶器・碗	(11.2)	6.0	4.8	透明釉				
54	S−25	土師器・土錘		1.3	5.1					
55	S−25	瓦質土器・擂鉢	(28.6)			褐釉			内面クシ目痕	
56	S−24	土師器・皿	8.1	1.4	6.2				底部糸切り痕あり	
57	S−24	土師器・皿	8.4	1.5	6.4				底部糸切り痕あり	
58	S−24	土師器・皿	8.6	1.5	6.3				底部糸切り痕あり	
59	S−24	土師器・皿	7.5	1.4	5.4				底部糸切り痕あり	
60	S−24	土師器・皿	8.6	1.5	6.4				底部糸切り痕あり	
61	S−24	土師器・皿	8.2	1.5	5.9				底部糸切り痕あり	
62	S−24	土師器・皿	8.5	1.6	6.4				底部糸切り痕あり	
63	S−24	土師器・皿	7.4	1.4	5.4				底部糸切り痕あり	
64	S−24	土師器・皿	8.7	1.4	6.6				底部糸切り痕あり　墨あり	
65	S−24	土師器・皿	7.6	1.4	5.5				底部糸切り痕あり	
66	S−24	土師器・皿	8.3	1.4	6.1				底部糸切り痕あり	
67	S−24	土師器・皿	7.5	1.4	5.6				底部糸切り痕あり	
68	S−24	土師器・皿	(8.3)	1.8	6.0				底部糸切り痕あり	
69	S−24	土師器・皿	8.1	1.5	5.9				底部糸切り痕あり　墨あり	
70	S−24	土師器・皿	8.4	1.6	5.9				底部糸切り痕あり　墨あり	
71	S−24	土師器・皿	8.0	1.5	6.3				底部糸切り痕あり　墨あり	
72	S−24	土師器・皿	7.9	1.4	6.4				底部糸切り痕あり　墨あり	
73	S−24	土師器・皿	7.8	1.3	6.5				底部糸切り痕あり　墨あり	
74	S−24	土師器・皿	8.5	1.5	6.2				底部糸切り痕あり　墨あり	
75	S−24	土師器・皿	8.4	1.5	6.2				底部糸切り痕あり　墨あり	
76	S−24	土師器・皿	9.9	2.3	6.7				底部糸切り痕あり	
77	S−24	土師器・皿	8.3	1.5	6.1				底部糸切り痕あり	
78	S−24	土師器・皿	9.2	2.0	6.6				底部糸切り痕あり	
79	S−24	土師器・皿	9.1	2.0	6.8				底部糸切り痕あり	
80	S−24	土師器・皿	8.1	1.5	6.1				底部糸切り痕あり	
81	S−24	土師器・皿	7.8	1.2	5.5				底部糸切り痕あり	
82	S−24	土師器・皿	7.8	1.4	6.0				底部糸切り痕あり	
83	S−24	土師器・皿	8.2	1.5	6.4				底部糸切り痕あり	
84	S−24	土師器・皿	8.1	1.4	6.5				底部糸切り痕あり	

表11　31次1区調査図化遺物観察表３

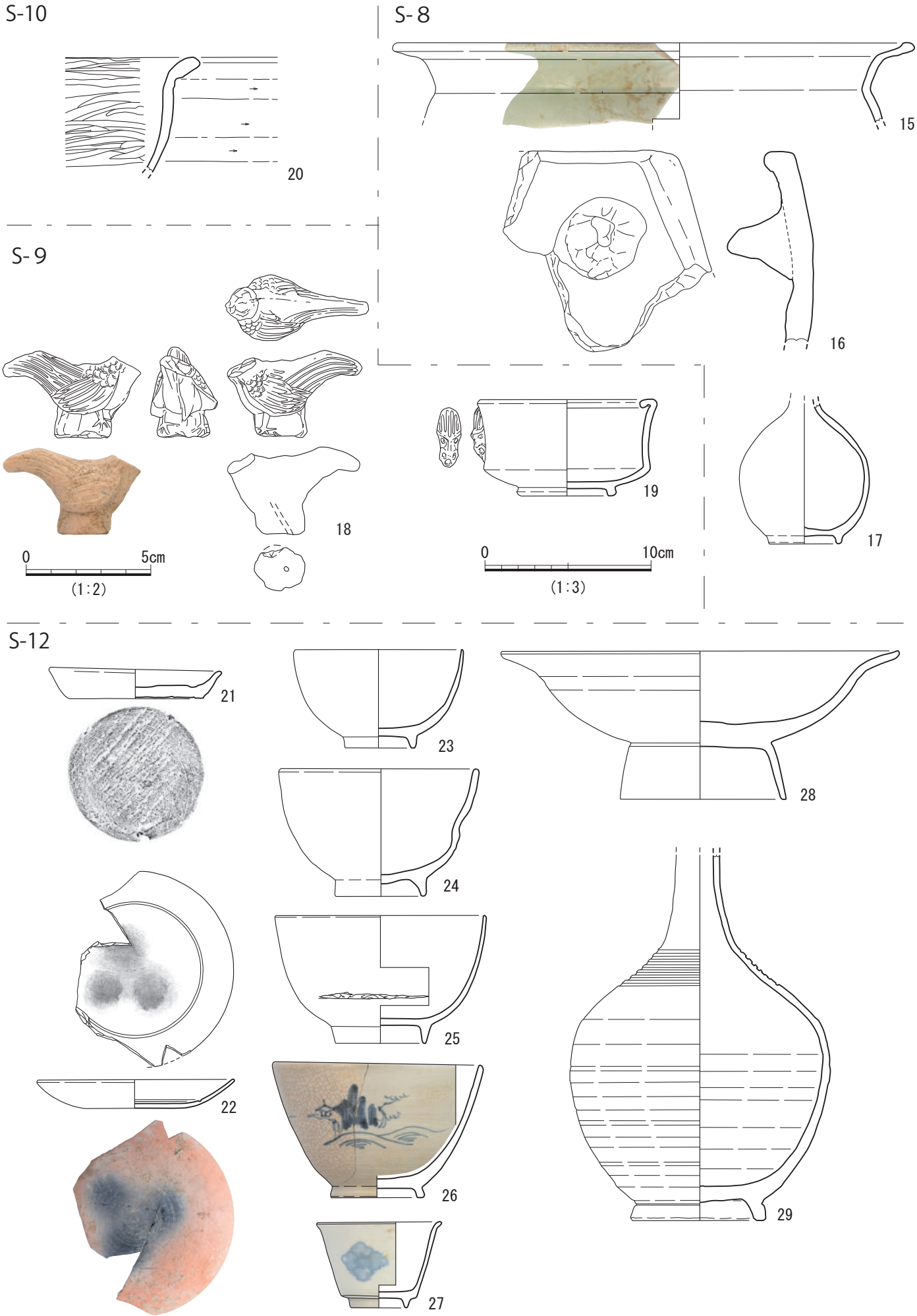
No.	遺構番号	種別・器種	法量(cm)			装飾		製作年代	備考	図No.
			口径	器高	底径	絵付釉薬	文様			
85	S−24	土師器・皿	8.1	1.6	6.2				底部糸切り痕あり	
86	S−24	土師器・皿	8.9	1.8	6.2				底部糸切り痕あり	
87	S−24	土師器・皿	7.8	1.3	6.4				底部糸切り痕あり	
88	S−24	土師器・皿	8.2	1.5	6.2				底部糸切り痕あり	
89	S−24	金属器・蓋	(9.5)	1.5	1.0				つまみ宝珠あり	
90	S−24	陶器・碗	9.8	6.6	4.4	白化粧透明釉			内外面明黄灰色　回転ヨコナデ	
91	S−24	陶器・碗	10.0	6.6	4.4	白化粧透明釉			内外面明黄灰色　釉薬溜りのヒビ	
92	S−24	陶器・碗	(6.0)	(11.6)	(6.8)	透明釉			内外面浅黄色	
93	S−24	陶器・碗	(10.8)	6.9	(4.6)	褐色釉			回転ヨコナデ	
94	S−24	陶器・碗	(11.2)	7.8	5.2	透明釉			内外面貫入りあり	
95	S−24	瓦質土器・焙烙	(32.4)	8.6					スス付着	
96	S−24	金属製・取っ手		9.9	4.4				胴?	
97	S−24	瓦・軒先瓦	(15.0)	1.4	2.2		左三巴・珠			
98	S−40	磁器・碗		(3.3)	5.3	白磁	点状	1780~1810年代	内外面1条圏線　広東碗	
99	S−40	陶器・徳利	3.4	(6.3)		施釉			回転ナデ	
100	S−40	土師器・土錘	1.3	(4.7)	0.3					
101	S−40	磁器段重	(15.2)				笹・染付	18世紀	肥前	
102	S−41	土師器・皿	(8.3)	1.1	(6.5)				ヨコナデ	
103	S−41	陶器・碗		(5.0)	4.6	施釉		1590~1600年代	釉は内外面とも薄　唐津	
104	S−41	陶器・碗	(10.2)	(5.4)	(3.6)			18世紀	内外面黄灰色の釉　福岡	
105	S−41	磁器・碗	(10.1)	5.0	3.9	施釉	草花	18世紀後半	肥前	
106	S−41	瓦・軒先瓦		(14.2)	1.7		瓦当・左三巴・珠		珠文は17個	
107	SX−1	土師器・小皿	(10.8)	1.9	8.6				底部糸切り痕	
108	SX−1	磁器・蓋	10.2	3.0		透明釉			外面斜格子、格子	
109	SX−1	磁器・碗	9.8	(4.0)	5.4	透明釉			内面見込　外面染付あり	
110	SX−1	陶器・甕		(6.6)		自然釉			口縁部に自然釉	
111	SX−1	陶器・大甕		(10.4)					回転ヨコナデ	
112	SX−1	瓦・平瓦								
113	SX−1	瓦・軒丸瓦	14.2					17世紀前半		
114	SX−1	瓦・軒丸瓦	13.7	2.1	1.9			17世紀前半	内面布目痕	
115	S−47	土師器・皿	9.7	1.4	7.4				口縁部スス付着	
116	S−47	土師器・皿	10.2	2.2	6.5				焼成時ゆがみあり	
117	S−47	土師器・皿	10.0	2.1	7.5				糸切り痕	
118	S−47	土師器・皿	10.9	1.7	9.2				糸切り板目痕	
119	S−47	陶器・碗		(3.5)	5.2	透明釉			内外面貫入りあり	
120	S−47	陶器・碗	11.2	7.4	5.0	透明釉			ヘラ削り	
121	S−47	陶器・碗	(11.4)	7.3	4.8	透明釉			内外面白色に変色	
122	S−47	陶器・碗	11.6	8.0	5.0	透明釉			底部砂目痕あり	
123	S−47	磁器・小杯	7.8	4.8	3.8	透明釉		18世紀	松葉、家、山の絵あり　肥前	
124	S−47	磁器・小杯	(7.6)	5.3	3.8	白色釉		18世紀	松葉、家の絵あり　肥前	
125	S−47	磁器・猪口	(7.8)	4.9	4.1	施釉	草木		底部外面「奐」文字	
126	S−47	磁器・碗	(11.0)	6.7	5.2	透明釉			外面染付つる葉	

表12　31次1区調査図化遺物観察表４

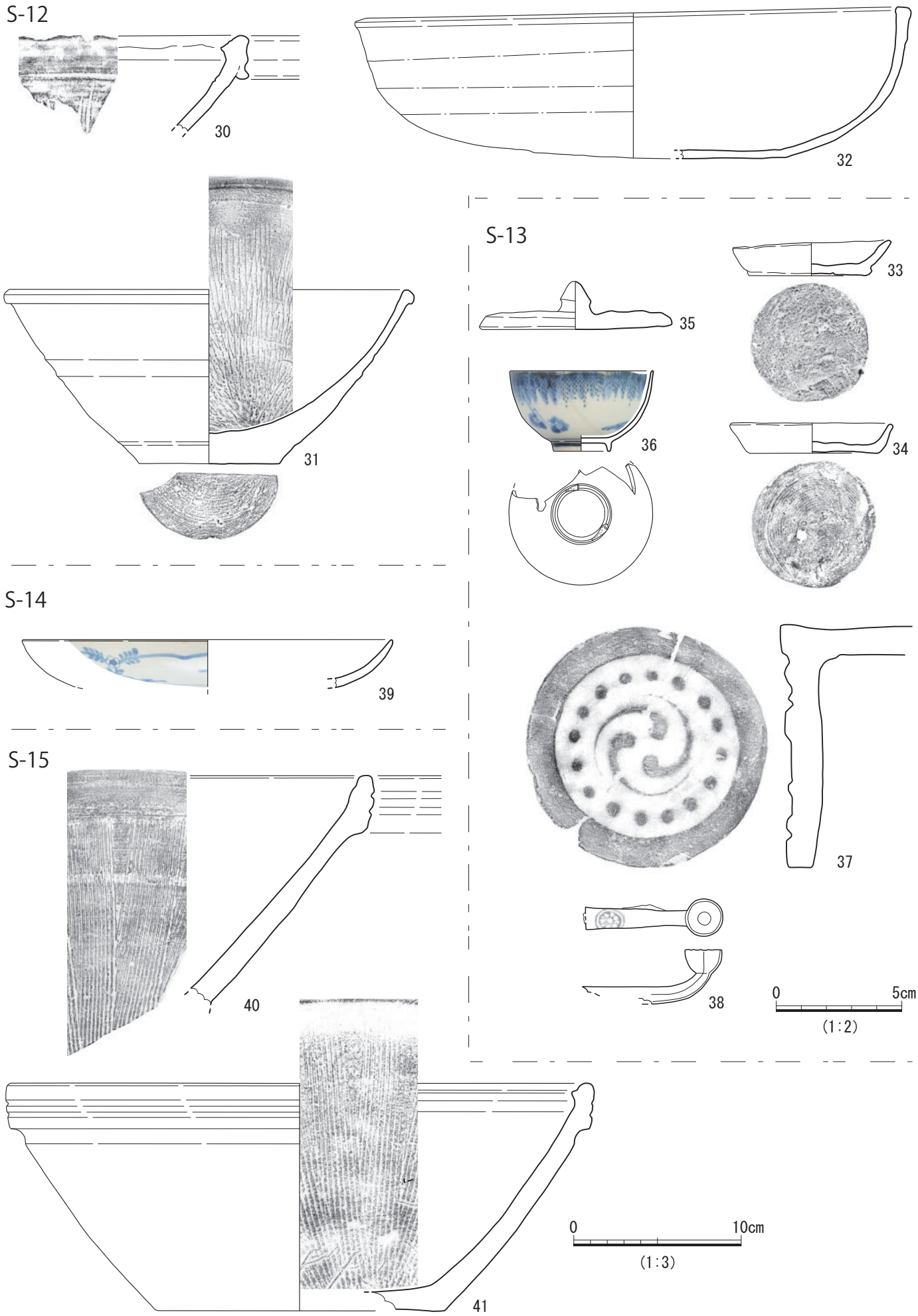
No.	遺構番号	種別・器種	法量(cm)			装飾		製作年代	備考	図No.
			口径	器高	底径	絵付釉薬	文様			
127	S−47	磁器・碗	(15.6)	(6.7)		施釉	梅・島	17世紀後半~18世紀	肥前色絵磁器、柿右衛門様式か	
128	S−47	青磁・大皿		(5.0)	(11.8)	施釉	ヘラ彫り	1630~1650年代	蛇の目状に釉を剥ぎ取ったのち褐釉	
129	S−47	陶器・擂鉢	26.6	10.3	10.3	褐釉		17世紀	底部粘土痕あり　唐津	
130	S−47	陶器・擂鉢		(6.5)		茶褐色釉				
131	S−47	土師器・焙烙	(31.0)	9.7					口縁部円孔が残存	
132	S−47	陶器・鉢	(38.4)	22.0	(17.8)	褐釉			2ヵ所、型押成形による獅子頭の把手	
133	S−47	土製品・土人形	3.8	2.9	1.6	透明釉			素焼き	
134	SE−1	磁器・碗	9.7	4.7	3.2	透明釉			外面松葉染付あり	
135	SE−1	陶器・碗	(11.2)	(7.4)	(4.6)				口縁部に二重圏線　高台に二重圏線	
136	SE−3	磁器・碗	(23.2)			透明釉			口縁部に染付	
137	2号敷石遺構	磁器・瓶			(5.0)	白磁・青磁	唐草		外面タコ唐草	
138	2号埋甕	陶器・埋甕	(51.0)						回転ヨコナデ	
139	2号埋甕	陶器・埋甕			36.0					



第18図　31次調査１区出土遺物１（1:3、14は1:2）

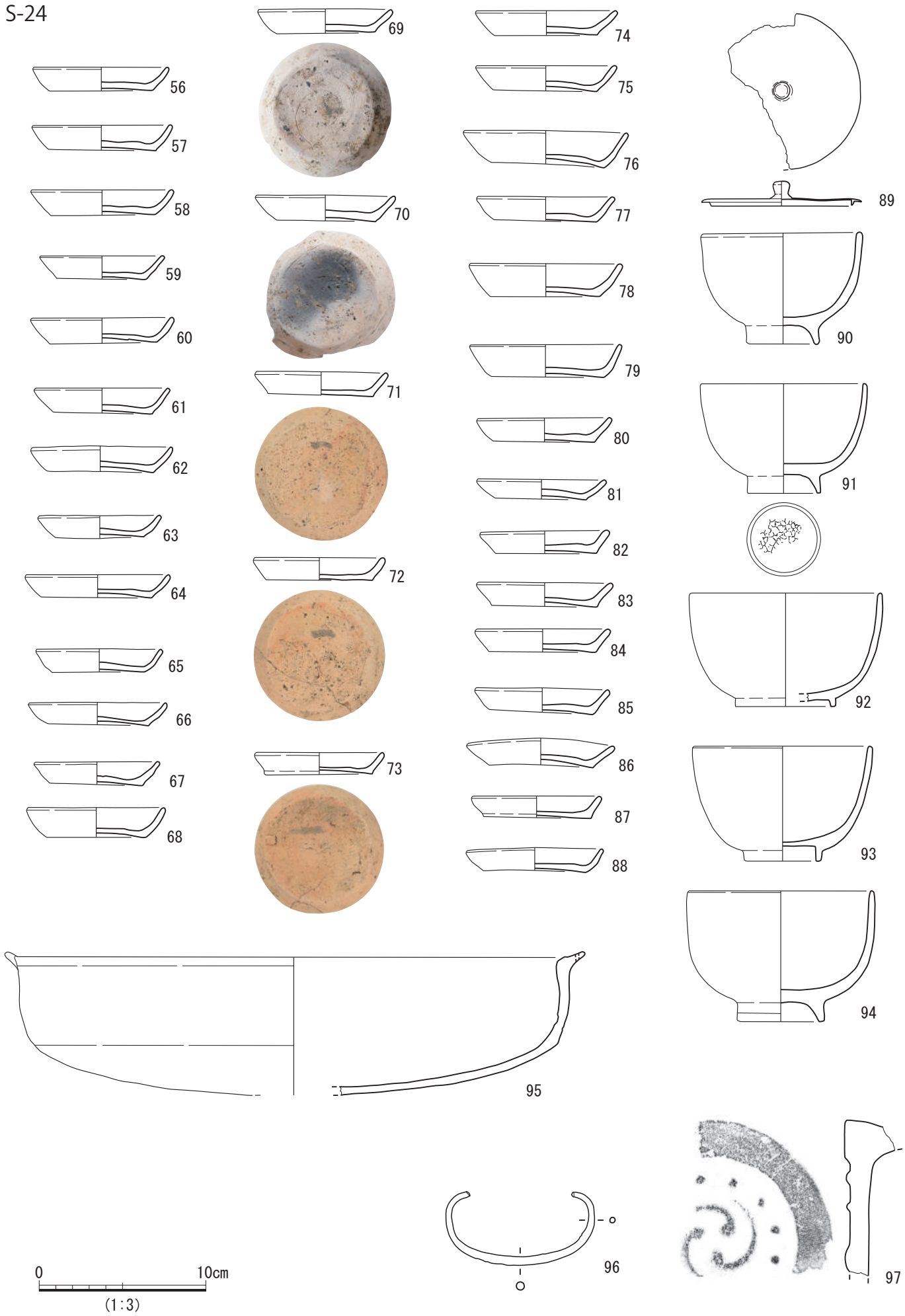


第19図　31次調査１区出土遺物２（1:3、18は1:2）

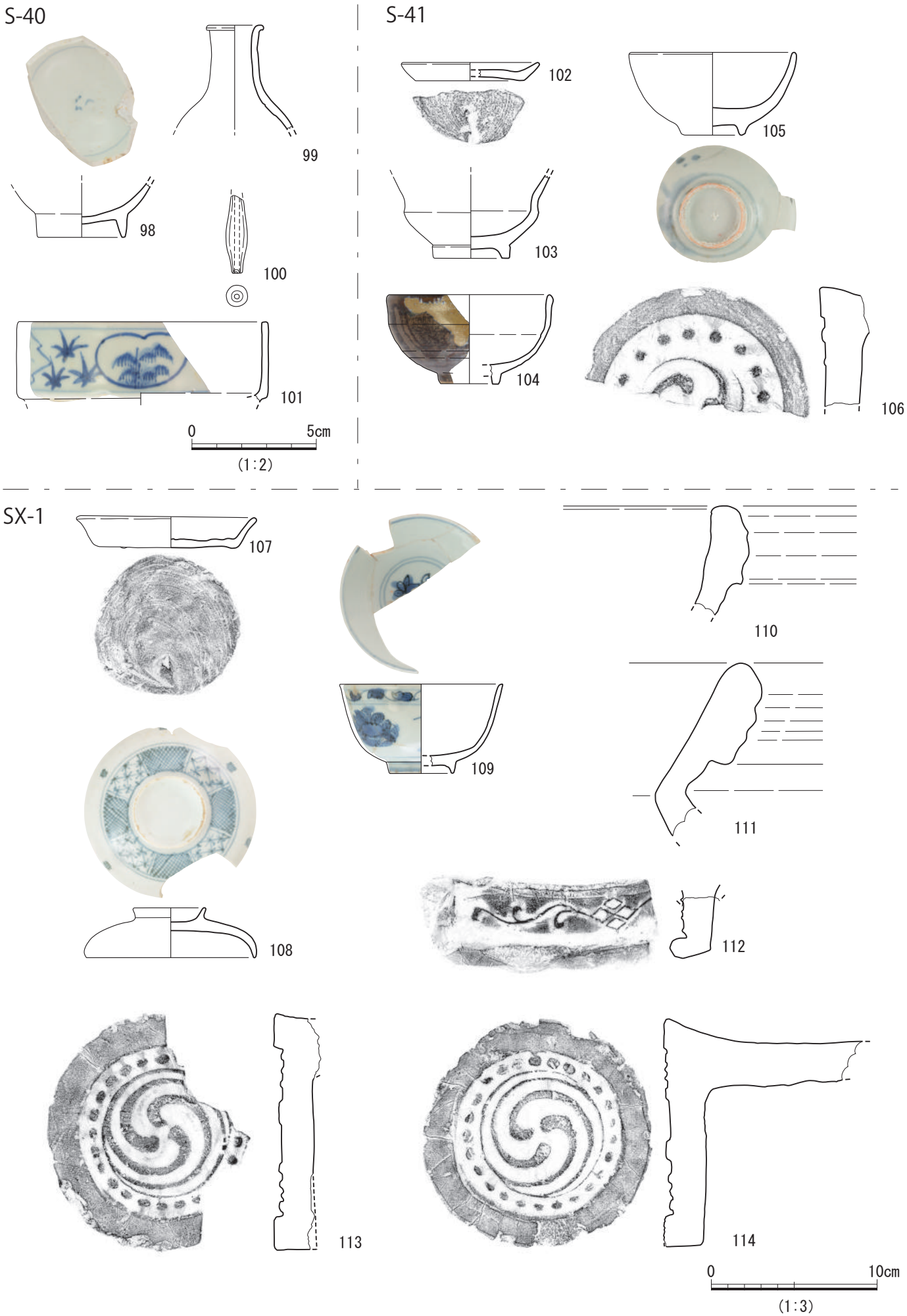


第20図　31次調査１区出土遺物３（1:3、38は1:2）

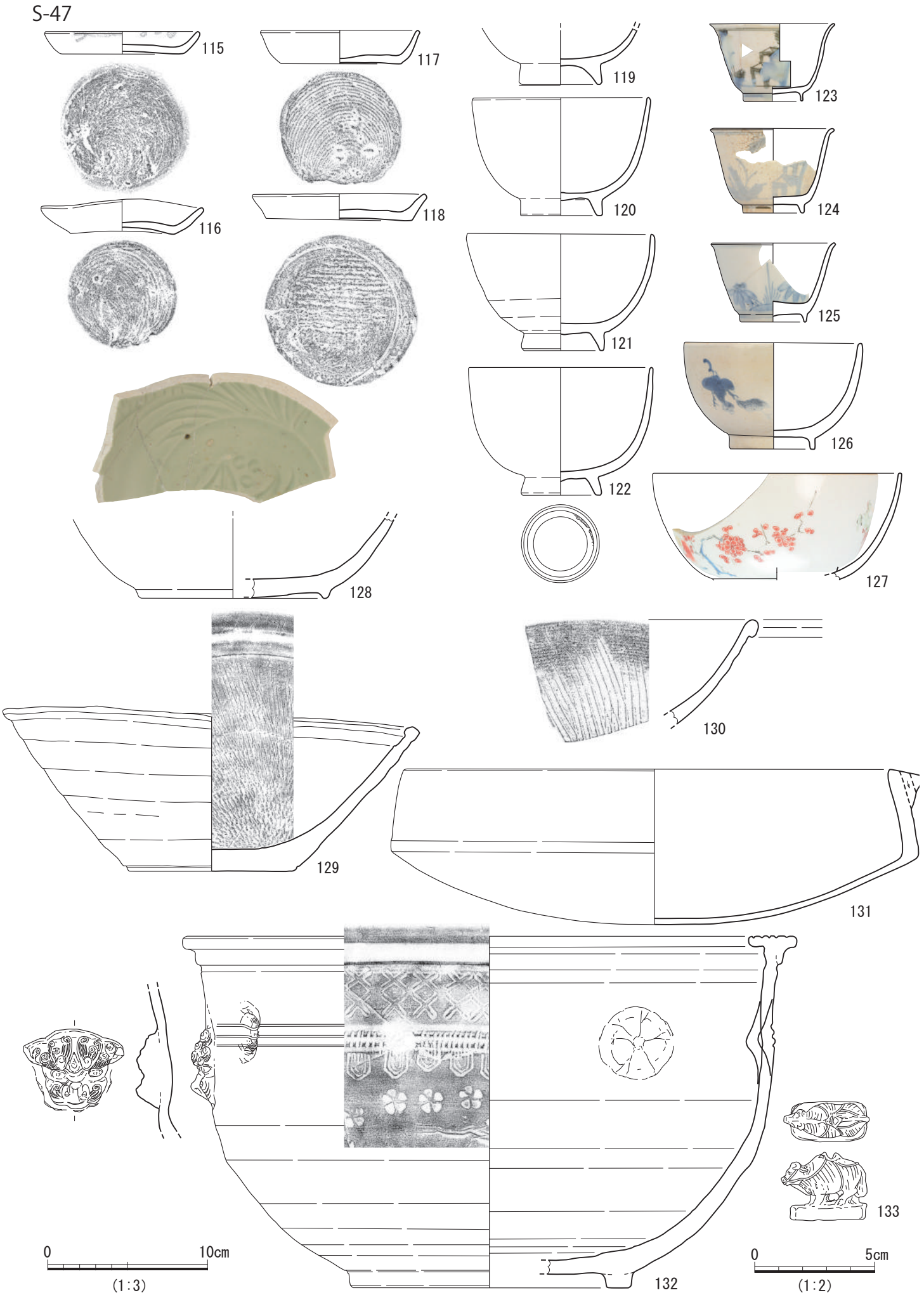
第21図　31次調査１区出土遺物４（1:3、54は1:2）



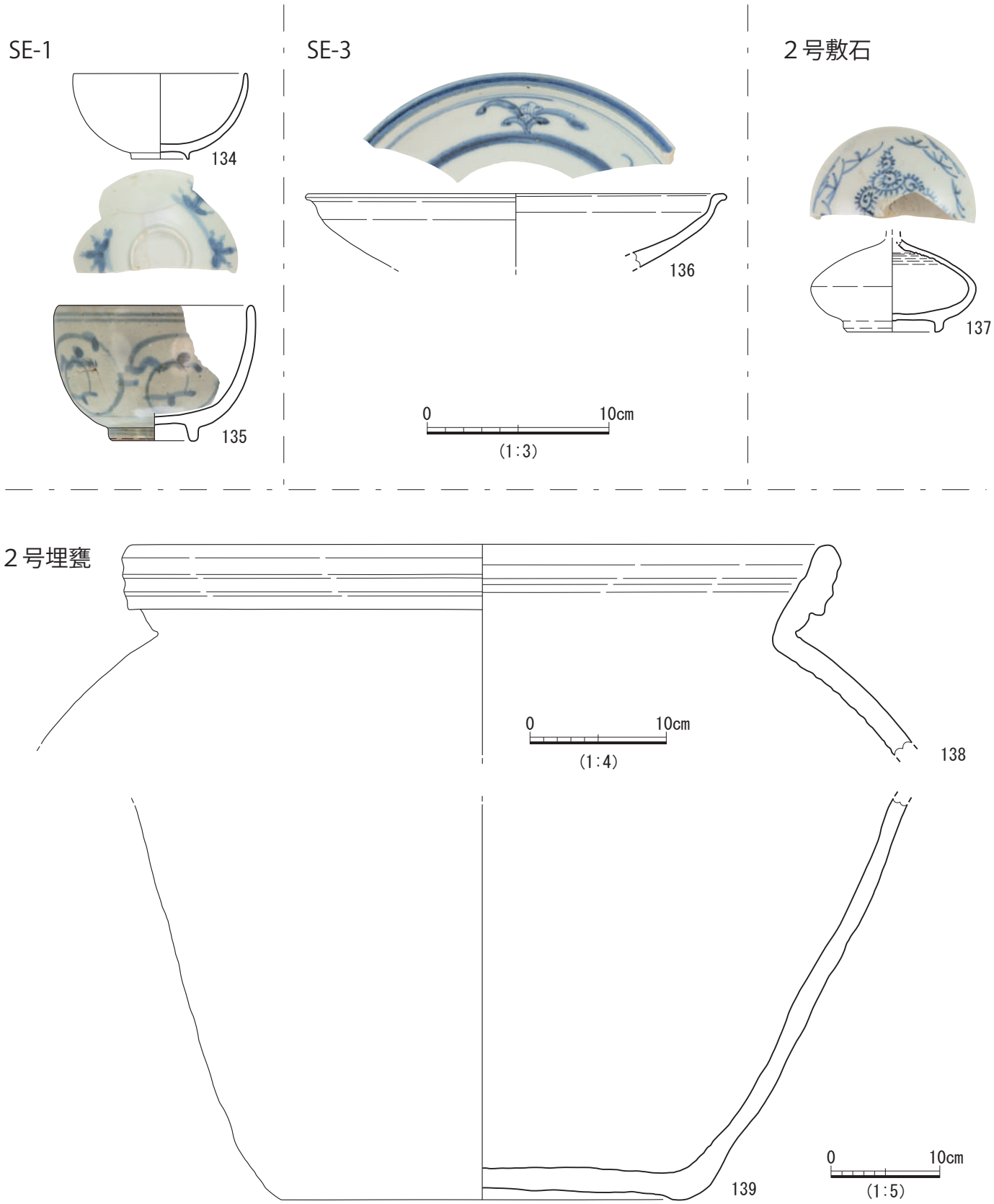
第22図　31次調査１区出土遺物５（1:3）



第23図　31次調査１区出土遺物６（1:3、100は1:2）



第24図　31次調査１区出土遺物７（1:3、133は1:2）



第25図　31次調査１区出土遺物８（1:3、138は1:4、139は1:5）

3　31次調査２区（第26図、表13・14）

（１）調査の概要

調査区は幕末の絵図で三輪丈助の屋敷跡にあたる。調査区は幅2.6m、長さ13m、面積は34㎡。検出された遺構は土坑12基、ピット31基、溝状遺構３基である。遺構は17～18世紀代が主体である。

基礎層序は１層、整地層、２層は暗灰褐色土層で焼土炭化物が混じる。検出された遺構は２層から掘り込まれる。

（２）おもな遺構

柱穴列について（第26図）

２区で柱列が３ヵ所で確認された。いずれも県道に直交する。中津の城下町の町割りは現在の道を踏襲していることから、通りを意識した配列になる。S-7、22、19、37が、S-16、20、24、40、31が、S-41、42、44、46が列になる。調査区が狭いので性格を追うことができないが、深さや大きさからセットであろう。S-7の列は5.96mを測る。S-21に切られる。全景は不明であるが最大幅36㎝～50㎝。最大深52㎝～62㎝を測る。柱間は180㎝。S-16の列は7.8mで最大幅32㎝～40㎝、最大深32㎝～45㎝を測る。柱間は180㎝。S-24の間隔と配列が軸からずれることからセットになるか。S-41の列の柱穴全景は不明であるが、最大幅28㎝～44㎝、最大深11㎝～42㎝を測る。柱間は210㎝。S-5に切られる。柱列で特筆されるのはS-37から天目碗片が出土している。19は復元口径11.6㎝を測る。瀬戸、17世紀。柱を据える時の地鎮祭であろうか。

S-5（第26図）

S-5は検出された部分で全長9.8m、最大深30㎝を測る。調査区東側は不明であるが、溝状になるものであろうか。S-41の柱穴列を切り、他の柱列と同様、県道に直交する。出土遺物は少ないが、近世の陶磁器は皆無であった。今回、図示していないが天目碗の口縁部も１点出土している。他の遺物は瓦質土器の小片であった。S-5は黒田期の遺構であろうか。遺構の深さは浅いが、区画の性格をもった遺構と推測される。１区のS-23も西側半分が不明であるが同様の遺構であろうか。１区S-23～２区S-5までは直線で30mである。1は景徳鎮の碗底部である。16世紀後半。

S-21（第26図、写真24）

S-21は浅い溝状に掘り込まれ、10㎝程の礫が並ぶ遺構である。溝の幅は最大で16㎝、最大深７㎝を測り、県道に平行に走る。S-5、19、20を切る。２区で検出された遺構では時期が下がるものであろう。出土物は１点もない。屋敷を区画するものか。

S-29、33、35、36（第26図、写真26）

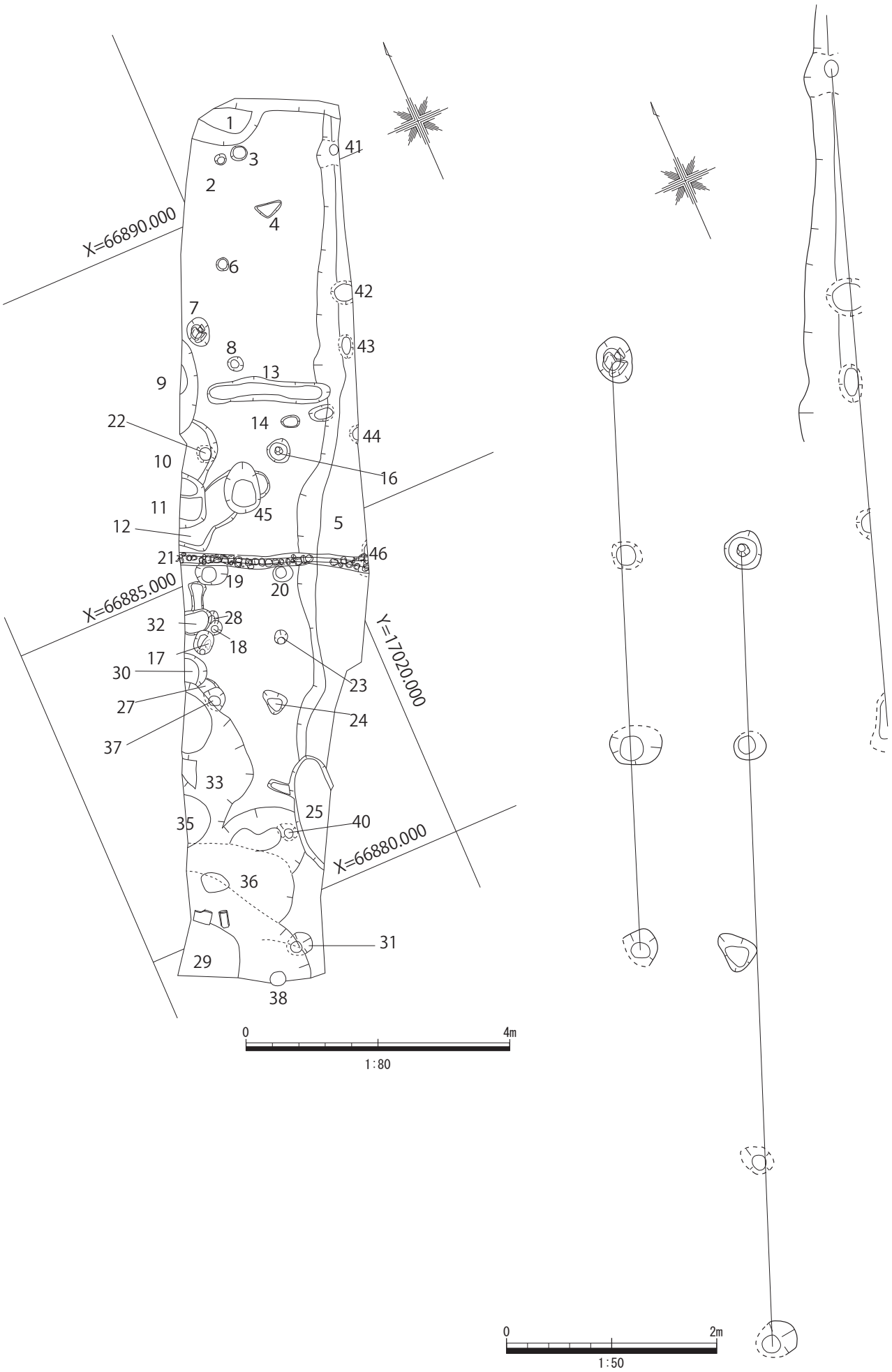
調査区の南側は大型の土坑が切り合って検出された。出土物から遺構の時期差は観察できなかったが、調査区西側の土層から（新）S-29➡S-36➡S-33、35（古）となる。深さ約65㎝～70㎝、大きさは全景が不明であるが概ね同様と推測される。この地点は屋敷の裏庭部分になり頻繁に廃棄土坑が掘りなおされた場所と推測される。出土遺物は18世紀が主体である。

表13　31次2区調査遺構観察表１

遺構番号	最大幅(cm)	最大深(cm)	備　　考
S-1	226+α	55+α	灰褐色砂質土。10cm程の礫多数。
S-2	27	5	灰褐色土。ピット。
S-3	26	5	灰褐色土。ピット。
S-4	41	5	灰褐色土。
S-5	965+α	33	灰褐色土。10～20cmの礫少まじり。
S-6	19	13	淡褐色土。ピット。
S-7	43	56	淡褐色土。ピット。
S-8	24	21	ピット。
S-9	145+α	23	S-10を切る。近代の遺構か。
S-10	103+α	14	S-9、11に切られる。
S-11	80+α	23	S-10、12、18を切る。
S-12	132+α	10	灰褐色土層。炭化物、焼土を少含む。
S-13	186	12	灰褐色土層。
S-14	28	9	灰褐色土層。炭化物少混じり。
S-15	38+α	22	S-5と切り合い不明。
S-16	35	26	灰褐色土層。単一層。炭化物まじり。
S-17	37	53	S-32を切る。
S-18	23+α	25	S-32に切られる。
S-19	49+α	61	暗褐色土層。炭化物、焼土多く含む。S-21に切られる。
S-20	31+α	47	S-21に切られる。柱穴。
S-21	290+α	8	淡褐色土層。10cm程の礫が並ぶ。石列。
S-22	32+α	53	S-10に切られる。柱穴。
S-23	21	38	灰褐色土層。柱穴。
S-24	39	36	灰褐色土層。柱穴。
S-25	175+α	18	灰褐色土層。焼土まじり。S-5を切る。
S-26	128+α	30	黄褐色土層。S-25、40を切る。S-36に切られる。
S-27	26+α	12	S-30、37に切られる。天目碗出土。
S-28	18+α	16	S-18、32に切られる。
S-29	208+α	77	S-38に切られる。S-31を切る。

表14　31次2区調査遺構観察表 2

遺構番号	最大幅(cm)	最大深(cm)	備　　考
S-30	54+α	24	灰褐色土層。炭化物少あり。S-27を切る。
S-31	40+α	30	灰褐色土層。焼土まじり。S-38に切られる。
S-32	45+α	10	S-18、28、39を切る。S-17に切られる。
S-33	114+α	50	S-26、27、37を切る。
S-34	42+α	25	灰褐色土層。S-12に切られる。
S-35	110+α	55	S-33を切る。
S-36	170+α	84	S-29に切られる。S-26とは切り合い不明。
S-37	34+α	53	S-27を切る。S-33に切られる。
S-38	91+α	65	S-29、31を切る。
S-39	42+α	12	S-32に切られる。
S-40	31+α	25	S-26に切られる。
S-41	42+α	40	S-5に切られる?
S-42	33+α	23	S-5に切られる?
S-43	39+α	12	S-5に切られる?
S-44	29+α	21	S-5に切られる?
S-45	80	25	S-12、34を切る。
S-46	45+α	12	S-5に切られる?

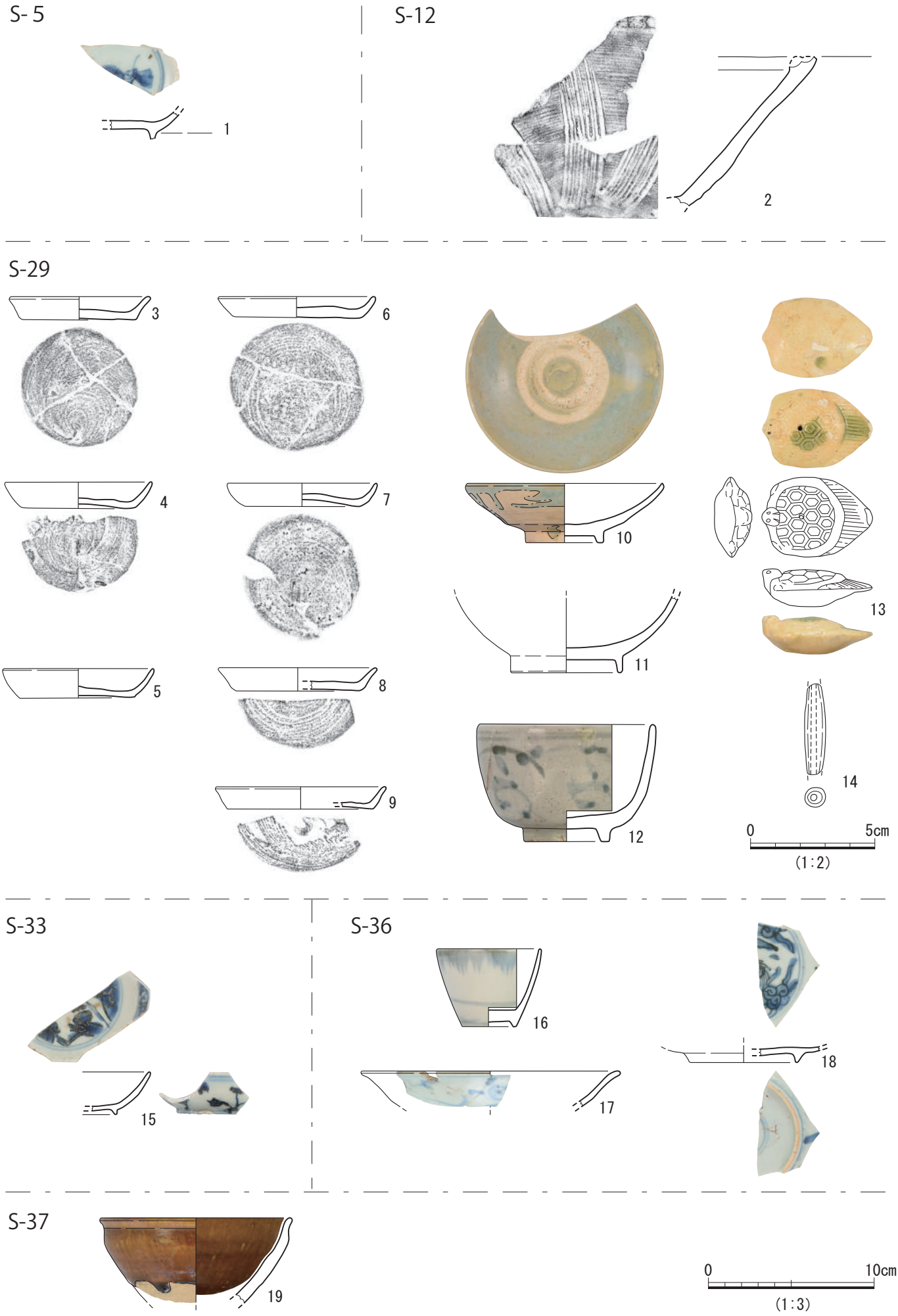


第26図　31次調査２区個別遺構図（1:80柱穴列、1:50）

（３）出土遺物（第27図、表15）

表15　31次2区調査図化遺物観察表

No.	遺構番号	種別･器種	法量(cm)			装飾		製作年代	備考	図No.
			口径	器高	底径	絵付釉薬	文様			
1	S−5	磁器･碗		(1.6)			文様あり	16世紀後半	内面見込二重圏線	
2	S−12	瓦質土器･擂鉢		(9.0)					外面荒いナデ	
3	S−29	土師器･皿	8.5	1.4	6.8				回転ヨコナデ	
4	S−29	土師器･皿	(8.9)	1.6	(7.0)				回転ヨコナデ	
5	S−29	土師器･皿	9.1	1.3	7.0				回転ヨコナデ	
6	S−29	土師器･皿	9.5	1.3	7.8				回転ヨコナデ	
7	S−29	土師器･皿	9.0	1.4	6.9				内外面スス付着	
8	S−29	土師器･皿	(9.6)	1.4	(7.5)					
9	S−29	土師器･皿	(10.3)	1.3	(8.8)				回転ヨコナデ	
10	S−29	陶器･皿	12.0	3.6	4.6	緑釉			内面底部蛇の目釉剥ぎ　重ね砂目痕	
11	S−29	磁器･碗	(13.5)	(4.5)	(6.8)	透明釉				
12	S−29	陶器･碗	10.8	7.3	5.2	透明釉	唐草		底部砂目痕あり	
13	S−29	陶器･水滴	3.2	4.4	1.5	透明釉			下面に5cmほどの緑釉痕がある	
14	S−29	土師器･土錘	1.3	(5.4)					上下両端が欠損	
15	S−33	磁器･皿		2.6	(6.2)	透明釉			口縁部二重圏線	
16	S−36	磁器･小杯	6.4	4.7	3.3	透明釉	雨降り		高台下砂目痕あり	
17	S−36	磁器･皿	(15.7)	(2.1)		白磁	1条の圏線		227と同じ個体か?	
18	S−36	磁器･皿		(1.0)	(6.6)	白磁	見込に文様		226と同じ個体か?	
19	S−37	陶器･天目茶碗	(11.6)	(5.1)		施釉		17世紀初め	回転ヘラケズリ　瀬戸美濃	



第27図　31次調査２区出土遺物（1:3、14は1:2）

第４章　まとめ

29次調査まとめ

29次調査区は、家屋の撤去工事との都合で、南北の２区に分けて調査を行った。北側調査区は殿町、南側調査区は諸町にあたる。北側調査区で検出した石積１は現在地表で目視できる背割水路より１段階古いものと考えられるが、この石積１の南北で検出遺構の密度、時期に違いがみられた。北側調査区では遺構の重複が顕著で18世紀半ばを中心とする時期のものが多く、南側調査区では遺構は疎らで時期も17世紀代の遺物を多く認めている。この差異は後世の削平や屋敷地に対する建屋の配置など土地利用に起因するものと考えられる。

北側調査区は武家屋敷にあたる。武家の屋敷地の土地利用がうかがえる例として、二ノ丁の竹下義兵衛屋敷地跡がある。（文献⑦）調査では土塀、入口の敷石、建物基礎、井戸、溝が確認されている。（現存していた建物は建築年代不明）この調査例を参考にすれば、武家屋敷地は道から少し奥まった所に建屋を配置し、その裏に庭を造っている。北側調査区は屋敷地の裏庭部分にあたるであろうが、大型で深い土坑を多数検出している。

一方、南側調査区の整地層（検出面）は北側よりも20㎝低く、その分削られている可能性が高い。また諸町は現在も商家の通りであるが、屋敷地の道に面して建物を配置し裏側（背割側）を作業場や庭としている。この配置が江戸時代から続くものであるならば、17世紀代以降、屋敷地の裏側にあたる南側調査区では土地を掘削する機会が少なかったため17世紀代の遺構が残ったとも解釈できる。

29次調査区に建っていた家屋の所有者は、江戸時代後期に分家してこの地で酒の販売、製造などを行っていた家であるが、今回家屋を解体するにあたって家に伝わる貴重な文書、器物を中津市教育委員会に寄託して頂いている。こうした史料と発掘調査成果を併せて諸町地区の歴史を復元していくことが今後の課題となろう。

土地区画（背割水路）の変遷

29次調査区では、古い方からS-73→石積３、S-76→石積２→石積１という東西方向の区画施設の変遷が明らかになった。最初の区画溝である素掘りのS-73が埋められ、ほぼ同じ位置に幅を狭めて片面石積の区画溝（石積３、S-76）がつくられる。その後土地の嵩上げとともに埋められ、石積２がつくられ（両面石積であったかは不明）、その後石積１がつくられる。さらにその後盛土され、現在の地表面に残る背割水路がつくられたと考えられる。それぞれの埋没年代は、S-73は17世紀代に埋められ、石積３、S-76は出土遺物から18世紀半ば、また石積１については、解体された家屋の原形は幕末～明治はじめに建築されたものであると考えられることから、埋められたのは遅くとも明治時代と考えられる。

S-73は城下町整備の歴史を考えるうえで重要な遺構である。同様の区画溝は19次調査でも確認されている。（SD-1文献⑥）出土遺物の時期もほぼ同じである。重要なのはこれらの区画溝の掘削年代を確定させることであるが、出土遺物の精査、重複する他遺構との新旧関係から明らかになるであろう。今後、調査例の増加を待って検討したい。（丸山）

31次調査まとめ

31次１区調査地点は幕末の絵図では「桑名内記」の屋敷に含まれている。今回の調査は、屋敷地の北を発掘調査したことになる。31次調査1区で特筆すべき遺構は、17世紀初頭の土坑（S-19）と16世紀末までさかのぼる可能性のある火災処理遺構（SX-1）である。S-19から出土した水差は、ベトナム産のそれを模倣した可能性が高く、当該期の茶道具の生産・流通に関わる重要な遺物である。火災処理遺構については、中津城下町遺跡の発掘調査では18世紀～19世紀代の遺構が調査された例はあるが、16世紀末～17世紀初頭と推定される火災処理土坑の調査例は今回が初例である。細

川氏の治世から中津城下が既に火災に見舞われていたことを示すものであり、城下町の歴史を考える上で興味深い。

次に調査区内の遺構構築状況についてみていく。17世紀初頭前後のS-19・SX-1、及び18世紀後半以降のものも同じ標高3.8ｍ付近で検出されている。第14図の土層をみるとこれらの遺構は4.2ｍ付近から掘り込まれており、18世紀後半頃の遺構も標高4.2ｍ付近から構築された可能性が高い。17世紀代と18世紀代の遺構が地表面から約40㎝下位の同じ生活面に構築されていることは特筆される。また、遺構検出面から上位約30㎝は整地層とみられる黄褐色粘質土（Ⅲ層）や焼土・炭混じりの暗茶褐色粘質土（Ⅱ層）が平行堆積している。17世紀初頭前後の遺構が構築される以前にこれらの層が地山の上に整地されていたことを示す。これらは城下町形成時の初期整地層と考えられる。この初期整地層は、17世紀前半以降に構築される遺構により掘削されるため、同層が全く存在しない調査地点も存在する。今後は同層が城下のどの範囲まで分布・遺存するのか把握する必要があろう。

近接する殿町地区の調査では多くの遺構は標高3.0～3.9ｍの間で検出されている。注目すべき遺構として殿町地区26・27区のSD-10がある。（文献⑤）上場の標高3.2ｍ、幅4.3ｍ、深さ約1.7ｍを測り、16世紀末～17世紀前半の所産とされている。後世の遺構の構築などにより溝の立ち上がりは判然としないが、本調査地点のように標高4.2ｍから構築されていたと想定した場合、深さは2.7ｍとなり、より規模の大きな遺構ということになる。これまで調査された遺構の中には、見かけを上回る規模をもつ遺構も存在する可能性を指摘しておきたい。城下町を掘ると地山で確認できない遺構を調査区の壁で確認することが少なからずある。地山に至るまでに相当数の遺構を重機で削り取っているのであろう。今後は遺構検出の方法も含めて検討する必要がある。（浦井）

S-24について

1区で特記される遺構はS-24である。S-24は最大幅194㎝、最大深16㎝の廃棄土坑である。出土した土師質の小皿は使用された後、一括廃棄されたものである。中津市内の類例は平成9年度、県道拡幅に伴う調査で2区のSD-1から20枚ほどの小皿が一括廃棄された状態で検出された。S-24で検出された小皿は50枚で2.5倍の数量である。また外面底に「一」の墨書が4枚確認された。小皿の方量は平均で口径8.15㎝、器高1.48㎝を測る。底部は糸切りを施す。近世の土師質小皿は通常、宴席で使用され一回使用されるごとに廃棄される非日常的な食器と考えられる。また灯火具として転用される例が見られる。S-24から小皿以外に磁器片や陶器片が出土していることや、掘り方から小皿を廃棄するために掘った土坑ではなく、日常生活で不要になったものを廃棄するために掘られた土坑と考えられる。（花崎）

参考文献

①中津市教育委員会『中津城下町遺跡殿町奥平孫次郎屋敷跡　中津市文化財調査報告第33集』2004
②中津市教育委員会『中津城下町遺跡新魚町地区　村上記念病院通所リハビリテーション施設増改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　中津市文化財調査報告第55集』2012
③中津市教育委員会『中津城下町遺跡18次調査　中津市文化財調査報告第69集』2014
④中津市教育委員会『中津城下町遺跡第25・26次調査　中津市文化財調査報告第77集』2016
⑤中津市教育委員会『中津城下町遺跡殿町地区発掘調査報告書　中津市文化財調査報告第32集』2004
⑥中津市教育委員会『中津城下町遺跡・寺町　寺町クリニック福祉施設建設に伴う発掘調査　中津市文化財調査報告第65集』2013
⑦中津市教育委員会『下宮永カマタ地区　中津城下町遺跡竹下義兵衛屋敷跡　長者屋敷官衙遺跡第6次調査　市内遺跡発掘調査概報3　中津市文化財調査報告第51集』2010

写　真　図　版

写真 1　29次北側調査区全景（北から）

写真 2　29次南側調査区全景（東から）

29 次図版 2

写真 3　石積 1（北東から）

写真 4　S- 3（南東から）

写真 5　S-43（北東から）

写真 6　石積 2（南から）

写真 7　石積 3（北東から）

写真 8　S-76（東から）

写真 9　S-73（東から）

写真10　S-72（南から）

写真11　S-73陶器出土状況

写真12　S-71（北から）

31 次調査 1 区

写真13　31次 1 区遺構検出状況（北から）

写真14　31次 1 区調査区全景（西から）

写真15　S-14（西から）

写真16　SE-4（東から）

写真17　2 号埋甕検出状況

写真18　2 号埋甕出土状況

写真19　埋甕埋土除去後

写真20　31次 1 区西側全景（西から）

写真21　S-24出土状況（南から）

写真22　31次 2 区調査区全景（北から）

写真23　31次 2 区調査区全景（南から）

写真24　S-21石列（北から）

写真25　S-37陶器出土状況（東から）

写真26　S-29・33・35・36（東から）

写真27　作業風景

報　告　書　抄　録

ふりがな	なかつじょうかまちいせきじちょうさ
書名	中津城下町遺跡　29・31次調査
副書名	病院施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	中津市文化財調査報告
シリーズ番号	第87集
編著者名	花崎　徹・浦井　直幸・丸山　利枝
編集機関	中津市教育委員会
所在地	〒871-8501　大分県中津市豊田町14番地3　TEL 0979-22-1111
発行年月日	2018年3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	面積(㎡)	調査原因
中津城下町遺跡（なかつじょうかまちいせき）	大分県中津市（おおいたけんなかつし） 1930、2041ほか	44203	203002	33° 36′ 10″	131° 11′ 1″	29次 20150408～20150711 31次 20150701～20151209	606	病院施設増築・改築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中津城下町遺跡	城下町	近世	土坑 火事片付土坑 土師皿一括廃棄土坑 井戸跡 石列	土師器・陶器・磁器など	29次調査では、背割水路（区画溝）の変遷が確認できた。31次1区では火事片付土坑、井戸、土師皿一括廃棄土坑を調査し、31次2区では柱列を3列確認した。

要約	29次調査区は、諸町と殿町にまたがる。29・31次調査区は絵図では「桑名内記」と「三輪丈助」2つの屋敷地と町屋の一部に位置する。主な遺構の年代は17世紀～19世紀と考えられる。

中津城下町遺跡
29・31次調査

病院施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

中津市文化財調査報告　第87集

2018年3月31日

発行　中津市教育委員会
印刷　㈱川原田印刷社